

Sociedad Hispánica de Yokohama



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

2005年6月1日発行 第41号 発行・横浜スペイン協会事務局

横浜スペイン協会創立15周年記念号





メッセージ

駐日スペイン大使
ハビエル・コンデ

横浜スペイン協会設立15周年のお祝いに加われる事は、私にとり大きな喜びです。

横浜スペイン協会は最も活発な日西友好団体のひとつであり、その会員の皆様は事あるごとに、スペインとその言語、文化に対する愛情を示して来られました。横浜スペイン交流協会を前身とする横浜スペイン協会と駐日スペイン大使館は、協会の設立以来、常に素晴らしい関係を保ち、数々の活動で協力して来しました。

この15年間を通し、横浜スペイン協会は、下山貞明会長のもと、スペイン・日本両国民の友好を促進して来られました。中でもとりわけ、スペインに桜の植樹をするための寛大な活動は特筆すべきものです。 ロンダ市に植えられた桜は、毎年春になると花を咲かせ、ロンダ市民をその美しさで楽しませています。 今年はそれに加え、協会の15周年を記念し、スペイン大使館にも、横浜緋桜を植樹して頂きました。

また、1954年に横浜で亡くなり、横浜外人墓地に埋葬されている、フランシスコ・ホセ・デル・カステイーリョ スペイン大使のお墓に対するご高配にも感謝したいと思います。

協会の15周年は、愛知万博の開催の年にあたっています。 この万博に、スペインは、400以上の文化活動を展開し非常に積極的に参加しています。そして、スペイン・パビリオンは横浜港大さんばし国際旅客ターミナルの設計者として横浜ともゆかりのある、スペイン人建築家、アレハンドロ・サエラ・ポロのデザインによるものです。

横浜スペイン協会の下山会長、役員各位、会員の皆様に、日本におけるスペイン文化の普及へのたゆまぬ努力を感謝したいと思います。また、15周年の記念行事全てが大きな成功を収められますよう希望するとともに、将来にわたり、横浜スペイン協会と協力し続けていけるよう期待いたします。



El Embajador de España

MENSAJE

Es un gran placer para mí poder unirme a las celebraciones del XV Aniversario de la fundación de la Sociedad Hispánica de Yokohama.

La Sociedad Hispánica de Yokohama es una de las asociaciones hispano-japonesas más activas y sus miembros han acreditado reiteradamente su afecto por España, nuestro idioma y nuestra cultura. Desde su fundación, la Sociedad Hispánica de Yokohama, anterior Asociación de Intercambio entre Yokohama y España y la Embajada de España, han mantenido siempre una magnífica relación y han colaborado en numerosas actividades.

Durante estos quince años, la Sociedad Hispánica de Yokohama, bajo la presidencia del Sr. Sadaaki Shimoyama, ha promovido la amistad entre los pueblos de España y Japón. Quiero destacar especialmente su generosidad en favor de la plantación de cerezos en España. A los cerezos plantados en la ciudad de Ronda, que florecen en cada primavera y hacen disfrutar a los vecinos con su belleza, se han unido este año los que han sido plantados en la Embajada de España, cerezos de Yokohama "Yokohama hizakura", en conmemoración del XV Aniversario de la Asociación.

También, quiero agradecer su atención y cuidado de la tumba del Embajador Español, D. Francisco José del Castillo, fallecido en Yokohama en 1954 y enterrado en el cementerio de extranjeros de esa ciudad.

Este XV aniversario coincide con la celebración de la Exposición Universal de Aichi, en la que participa España muy activamente con más de 400 actividades culturales, y un pabellón diseñado por el arquitecto español Alejandro Zaera Polo, que ha dejado también su huella en Yokohama con la terminal de pasajeros de su puerto.

Quisiera agradecer al Presidente Shimoyama, a los directivos y a los miembros de la Asociación, su constante esfuerzo para difundir la cultura española en Japón. Les deseo mucho éxito en todos los actos conmemorativos del XV aniversario y espero poder seguir colaborando con la Sociedad Hispánica de Yokohama en el futuro.

Javier Conde
Embajador de España en Japón



横浜の国際交流に 一層のご活躍を！

横浜市長
中 田 宏

横浜スペイン協会の設立15周年、誠におめでとうございます。

貴協会は創立以来、一貫して地域に根ざした文化交流を推進してきました。その活動は下山会長の「イサベル女王勲章オフィシャル十字型章」受章に象徴されるように日本だけでなくスペインでも高く評価されております。

特に近年では、料理教室や音楽サロンなど多くの市民がスペインの文化に触れる機会を提供されており、その精力的かつ継続的な取り組みに対し、深く敬意を表します。

私は市長就任以来、「民の力が存分に発揮される都市・横浜」を市政運営の基本理念と掲げ、市民との協働による改革に取り組んでいます。その意味から、貴協会が区役所、市内国際交流団体等と連携しながら民の視点で横浜の国際化に貢献されていることを大変嬉しく思っております。

貴協会は創立以来、文化交流の柱として、スペインへの桜の植樹を継続して実施されており、この度、スペイン・ロンダ市に「日本さくら広場」が造園されたと伺いました。この広場が友好の象徴となり、両国間の市民交流がますます進むことを期待しています。

横浜スペイン協会の皆様、今後もこの熱意をもって、横浜の国際交流の一層の充実のために御尽力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

横浜市長 中 田 宏

◆AIYES通信 第41号目次

メッセージ

- 駐日スペイン大使 ハビエル・コンデ…… 2
横浜の国際交流に一層のご活躍を！
横浜市長 中 田 宏…… 4
横浜スペイン協会の更なる飛躍を！
(財)横浜市国際交流協会理事長
吉村 恭二…… 5
創立15周年を迎えて“将来展望の構築へ！”
横浜スペイン協会会長 下山 貞明…… 6

横浜スペイン協会15年の歩み

1. 協会の草創期 副会長 齋藤由基彦 …… 7
2. 協会の設立から今日まで 編集部 …… 8
会員に期待 副会長 飯塚 劭 …… 11
桜いろいろ 特別理事 池本 三郎 …… 11
協会は いま 事務局長 廣瀬 勝亮 …… 12
会員のひとこと…協会15周年に添えて…………… 13
ロンダ市親善訪問報告 寺原 瑛子 …… 21
……詩 秦 恵美子 …… 21
スペイン大使館に横浜緋桜を植樹…………… 22
こんな活動をしていますスペイン・サロン
山崎 宗城 …… 22



横浜スペイン協会の 更なる飛躍を！

(財) 横浜市国際交流協会
理事長 吉村 恭二

横浜スペイン協会設立15周年おめでとうございます。

1990年に設立されて以来、スペイン語や音楽、絵画などさまざまな文化事業を通じてスペインとの交流に貢献されてきましたが、2000年には、下山会長が「イサベル女王勲章オフィシャル十字型章」を授与されるなどその功績がスペイン政府からも公式に認知され、日本とスペインの交流に大きな役割を果たしてこられましたことに心から敬意を表します。

(財) 横浜市国際交流協会 (YOKE) は、貴協会とは浅からぬ関係があります。1992年に、日本を代表する花である桜をスペインに寄贈しようという夢のような企画が貴協会からYOKEに相談がありました。そのプランのすばらしさと真摯な熱意に打たれ、YOKEも協力することになり、1993年3月に第一回桜植樹がアンダルシアのロンダ市、セビージャ市において実施されました。植物検疫などの大きな障壁があったにもかかわらず、みなさまの熱い思いが駐日大使を動かし、ロンダ市の幹部の心を揺さぶり、短期間のうちに実現できたことに私どもも大きな感銘を受けました。

その後も桜植樹を続けられ、このたびはロンダ市に“日本さくら広場”が誕生されたとのことで、貴協会の15周年のお慶びも一段と大きなことと存じます。

この15年の歳月は、世紀が代わり、スペインを取り巻くヨーロッパの社会経済情勢も大きく変わる大きな変換期でしたが、市民が中心となって進める国際交流を先駆的に進めてこられた横浜スペイン協会のみなさまの更なる飛躍を心からご祈念申し上げます。そして、同じく横浜を拠点に活動する私どもYOKEとしても、今後とも貴協会との連携、協力を深めていきたいと念じております。

スペイン・サロンへのお誘い…………… 23

1月のスペイン・サロンは新年会…………… 23

文化講座からのお知らせ

スペイン音楽サロンへのお誘い

安田 秀之… 24

ある日の音楽サロン…………… 松本 益代… 24

たのしい絵画教室…………… 26

スペイン語教室だより…………… 26

私のスペイン

スペイン料理との出会い…………… 大森 悠爾… 27

スペインのピアノ作品の素晴らしさを伝えたい

上原由記音… 28

スペイン語との出会い、そしてスペイン旅の回想

太田 邦雄… 28

ユステの僧院

石元 道子… 30

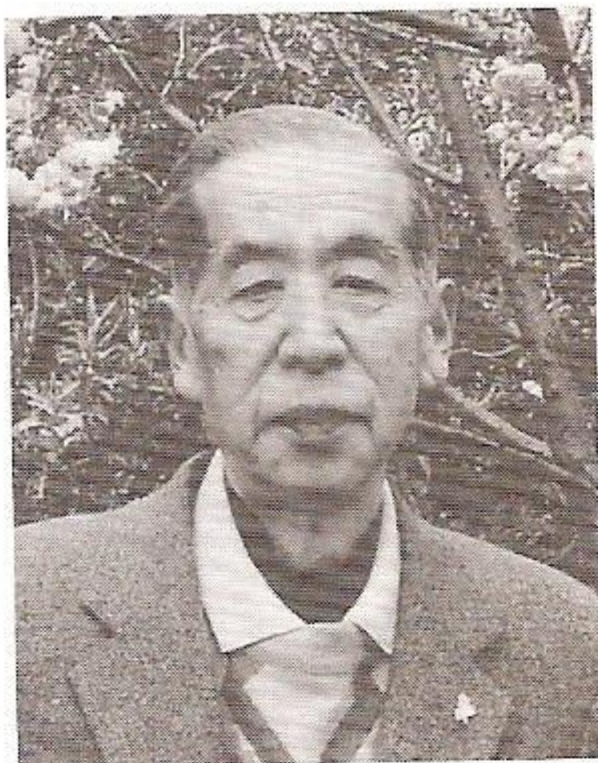
賛助会員各社の会員サービス…………… 30

新入会員紹介…………… 31

協会創立15周年記念行事のご案内…………… 32

表紙：ロンダアラメダ公園に咲く桜

スペイン大使館庭園に植樹された横浜緋桜



創立15周年を迎えて “将来展望の構築へ！”

横浜スペイン協会
会長 下山 貞明

横浜スペイン協会創立15周年を迎え、会員一同と共に、心から喜びたいと思います。

思い起こせば1990年7月7日、当協会の原点である“スペイン大好き”の仲間が集い、良い出会いを求めて発足してから早や15年が経過しました。

この間、歴代の駐日大使をはじめ、関係者の皆様のご指導とご協力を賜りながら、会員の皆様のたゆまぬ努力により着実に実績を積み重ね、充実した事業を展開して参ることができました。このことに対し、改めてここに厚く御礼申し上げます。

15周年記念の事業につきましては、前年度より準備を進めて参りました。主な事業としては、本年2月24日にスペイン大使館庭園に“横浜緋桜”の生みの親である白井勲氏のご援助のもと、横浜の名を冠したこの桜を植樹いたしました。また4月4日には、第4回ロンダ市友好親善訪問団を派遣いたしました。そして使節団は、1993年に植樹した桜が、いまや満開となってロンダの街並みを美しく咲き乱れる姿を見て参りました。

さらに、ロンダ市においてはアントニオ・マリン・ララ市長が命名したその名も“日本さくら広場”に当協会会員の三崎輝夫・甫夫妻が寄贈したベンチを設置。また、この“日本さくら広場”にある日本の桜の中にロンダ市を代表する“ピンサボ”の木を、市長と共に記念植樹して参りました。

この他、6月20日より26日までの間、会員の皆様による「私たちのスペイン展」と称する展示会を開催します。これは会員がスペインにそれぞれの思いを込めて撮影した写真、絵画、そして手芸品などを展示し、多くの横浜市民にスペインを理解してもらうためのものです。

6月24日には、日本各地からスペインと友好関係にある諸団体を横浜にお呼びし、交流会を開催。同日、当協会会員アーティストによる「スペイン音楽の夕べ」を開催いたします。

本会報（AIYES通信）も、創立15周年の特集を組みました。

この15周年を契機として、当協会はこれから新たな課題に向けて幅ひろい活動を展開していくために将来構想を策定し、更なる発展と日西交流のために尽くして参りたいと考えております。今後ともよろしくご協力とご理解をお願いして、挨拶いたします。



日本さくら広場で記念植樹をするマリン市長と下山会長

—— 横浜スペイン協会15年の歩み ——

1. 協会の草創期

副会長 齋藤由基彦

会員の皆様の熱意にささえられ、本年7月7日当協会は創立15周年を迎えます。そこで、ここまでに至った協会の歩みを、設立前からの動きを通して振り返ってみることにしました。分かりやすくするため、年表形式で記すことにします。

前史

下山会長が横浜市港南区長の時代に始まります。

- 1980年～ 区の花“ひまわり”に象徴される理念を生かした“国際交流”構想を練りました。この間、春田美樹画伯と柳貞子氏が相次いで来訪、下山会長と熱気溢れる懇談。そして、交流の相手はスペインと決まりました。理由付けは『数世紀にわたる日西友好関係。スペイン文化やスペイン人に対する親近感。そして、アンダルシア地方の明るく広大な大地に咲き誇る“ひまわり”』ということです。
- 1982年 8月 下山会長が、エドアルド・イバニェス駐日スペイン大使と面談。大使はこの“国際交流”構想に賛同される。
- 1982年10月 港南区民まつり「ひまわり文化祭」において“国際交流”構想を発表。イバニェス大使ご夫妻がご臨席。
- 1983年 4月 「横浜市港南区ひまわり親善国際交流協会」（以下「ひまわり協会」という）の設立総会を開催。駐日スペイン大使館ホアン・レニャ文化担当一等書記官（後の、駐日スペイン大使）が、大使の代理として、他の関係職員と共にご臨席。
- 1983年10月 港南区民まつり「ひまわり文化祭」及び「'83スペインフェア」を開催。
イバニェス大使ご夫妻レニャ一等書記官がご臨席。「大茶会」にご出席。
「春田美樹油絵展」や「スペイン書籍フェア・スペイン物産コーナー」をご覧になる。
- 1984年 3月 (1) 下山会長が外務省情報文化局の担当官と面談。スペインへの調査団の派遣について、外務省及び駐西日本大使の協力を得る。
(2) イバニェス大使が横浜市長を表敬訪問。市長のプラド美術館の思い出話を交え、“ひまわり親善国際交流”について歓談。
- 1984年 3月 調査団をセビージャ市及び同市トリアナ区、マドリード市の他2都市（グラナダ、マラガ）に派遣。（31日～4月9日）
(1) 駐西日本大使館を訪問。セビージャ市における調査団の受け入れ態勢を確認。
(2) マヌエル・デル・バイエ・アレバロ セビージャ市長及びフランシスコ・デ・アシス トリアナ区長と会談。市民相互の文化交流の趣旨に賛同を得、トリアナ区を窓口として、交流の推進に努める旨合意。
(3) レセプションを盛大に開催（アルフォンソ13世ホテルにて）。セビージャ市長及びトリアナ区長をはじめ、行政、金融、商工、観光、報道など各界を代表する方々がご出席。意見・情報交換を行う。
(4) ロンダ市文化担当官と春田美樹画伯が、調査団の宿泊先であるアルフォンソ13世ホテルに来訪。『ロンダ市民は、港南区との文化交流を希望しており、そのための組織づくりを進めている』とのロンダ市長のメッセージ（口頭）を受ける。
(5) トリアナ区長による歓迎パーティが下町のバルで開催され、同区内の各界を代表する方々ならびにロンダ市文化担当官及び春田美樹画伯ご夫妻が参会。簡素ながら、和やかで味わい深い懇談が続く。
- 1984年 6月 下山会長及び私（齋藤・以下同）が共に転勤、港南区を離れる。

- 1985年 9月 カミロ・パルシア駐日スペイン大使歓迎パーティ、続いて、フェリーペ・ゴンサレス スペイン首相歓迎パーティに「ひまわり協会」の役員と共に下山会長（当時：横浜市立大学事務局長）及び私（当時：横浜市建築局住宅管理課長）が招待を受け出席。セビージャ市長も出席され、旧交を温める。
- 1989年 4月 「ひまわり協会」は「こうなん文化・国際・交流協会」へと改組され、スペイン市民との相互交流の絆が切れました。

当協会の設立へ向けて

- 1984年 7月～「日本マドリード会」の理事でもあった下山会長は、純民間人によるスペインとの文化交流のあり方を模索。
- 1989年12月 春田美樹画伯がロンダ市長の『桜の植樹要請書』を携えて来訪。『日本の桜をスペインに、ロンダのピンサポを日本に』と、植樹交流を下山会長（当時：横浜産貿ホール専務理事）に提案され、“桜の植樹”構想が再浮上。
- 1989年12月～ 横浜在住の各界の方々の賛同を得て、“植樹交流”構想を練り、その具体化へ向けて事業の推進母体となる団体の設立準備作業を進める。この間、1990年4月に「スペイン・バルセロナ展（建築・芸術など）」が横浜において開催され、スペインにたいする市民の関心が一気に高まる。また、同年5月には「マドリード祭り」を開催。横浜港湾巡りや氷川丸船上でのパーティが催され、スペイン大使館関係者、日本マドリード会会員、横浜スペイン交流協会設立準備関係者や賛同者が多数参加。このように、高揚した状況の中で、協会設立作業は、若干の紆余曲折があったものの、設立発起人も決まり、『横浜スペイン交流協会設立趣意書』により、広く会員募集を開始する運びとなりました。

設立発起人（五十音順 役職は当時）

石川陽一	（神奈川大学外国語学部スペイン語科教授）	竹田富美	（有明製菓<株>専務取締役）
植田伊津	（横浜国際婦人文化交流協会会長）	西丸興一	（横浜市立大学医学部教授）
五神嘉子	（鶴見区社会福祉協議会副会長）	春田美樹	（画家 スペイン・ロンダ市在住）
近藤四郎	（日本マドリード会会長）	森川正子	（横浜地方裁判所司法委員）
下山貞明	（<財>横浜産貿ホール専務理事）	森川裕也	（<財>横浜市建築保全公社理事長）
高島正子	（前 横浜家庭裁判所調停委員）	柳 貞子	（声楽家）

- 1990年7月7日 「横浜スペイン交流協会」創立総会を神奈川県国際交流協会ラウンジにおいて開催。（財）横浜市海外交流協会の今井専務理事及び日本マドリード会の近藤会長がご祝辞。駐日スペイン大使館マヌエル・ビジャビエハ公使・参事官のメッセージを披露。総会終了後、春田美樹画伯が『アンダルシア地方に住んで』とのテーマで記念講演。

2. 協会の設立から今日まで

編集部

- 1990年 7月 横浜スペイン交流協会創立総会を開催（7日）。
- 1990年11月 会報「AIYES通信」創刊。
- 1990年12月 協会創立記念パーティ開催（於：横浜国際会議場ラウンジ）。
アントニオ・デ・オヤルサバル駐日スペイン大使ご夫妻ご参会。
- 1991年 6月 親日家として知られ、横浜山手外人墓地に眠る故デル・カステージョ元駐日スペイン大使（1954年6月18日没）を偲んで、命日にスペイン大使館・協会の共催で追悼ミサおよび墓参の会を行う。
オヤルサバル駐日スペイン大使ご参列。



1990年 7月

- 1991年10月 スペイン・サロン「日本とスペインの交流史」(佐久間正先生による月1回講義シリーズ) スタート。
- 1992年 4月 「スペイン語教室」スタート。
- 1992年 8月 復元船「サンタ・マリア号」の横浜寄港イベントに参加。横浜パシフィコ会場に「スペイン情報コーナー」を開設。「横浜スペイン交流パーティ」(31日)開催。オヤルサバル大使や多くの在日スペイン人も参加し、マドリード大学生のトゥナの演奏を楽しむ。
- 1993年 3月 第1回さくら植樹・スペイン友好親善訪問を実施(26日～4月4日)。ロンダ市に桜の苗木200本贈呈。記念植樹と市民文化交流。セビージャ市を親善訪問。
- 1994年 1月 「スペイン写真展」を開催(於:フォーラムよこはま・5日～9日)。
- 1995年 6月 協会創立5周年記念パーティを開催(30日)。
サンチャゴ・サラス駐日スペイン大使がご出席。
- 1995年10月 第2回さくら植樹・友好親善訪問(30日～11月6日)を宮城スペイン協会と共催で実施。セビージャ市マリア・ルイス公園、コリア・デル・リオ市グアダルキビル川畔の公園に記念植樹。アルフォンソ13世ホテルにおける交流パーティにはロンダ市関係者も出席。
- 1996年 3月 「私達のスペイン」写真展(於:かなしんギャラリー・26日～30日)。
- 1996年12月 さくら交流基金募集ディナーコンサート「スペイン音楽のタベ」(湘南ゾリスデン弦楽四重奏)を開催。サンチャゴ・サラス大使がご出席。
- 1997年 4月 「スペイン語教室」 6講座開講。ほかに月1回テルトゥリア。
「スペイン・サロン」(講演会など)年4回。
- 1997年 6月 サンチャゴ・サラス駐日スペイン大使が、当協会の名誉会長にご就任。
- 1997年11月 「スペイン写真展」(於:県民サポーターセンター・15日～23日)。
- 1997年12月 さくら交流基金募集「アトランタ・フラメンコショー」を開催。
- 1998年 3月 第3回さくら植樹・友好親善訪問を実施(8日～17日)。
セビージャ市トリアーナ地区プリンシペス公園にて桜植樹式。市民交流イベント「ヨコハマデー」(折り紙、押し花など紹介)を開催。ロンダ市アラメダ公園にて桜植樹式。「ヨコハマデー」も開催。
- 1998年 8月 「協会旗」及び「協会バッジ」を作成(児玉喬夫会員デザイン)。
- 1998年 9月 ロンダ市最大の行事「ペドロ・ロメロ祭」(1日～6日)に公式招待を受け、協会代表6名が参加。
- 1999年10月 ホアン・レニャ駐日スペイン大使が、当協会の名誉会長にご就任。
- 2000年 4月 ロンダ市代表团6名を横浜に招聘(1日～7日)。日本の桜のお花見をはじめ歓迎行事を実施(協会創立10周年記念行事の一環)。
- 2000年 4月 スペイン語教室の課外行事として、講師および受講生6名がセマナ・サンタにコルドバ県バエナ市を訪問。市民交流を実施(20日～22日、協会創立10周年記念行事の一環)。
- 2000年 6月 協会創立10周年記念行事「スペイン映画会」を開催(於:関内ホール)。
「私の秘密の花」(ペドロ・アルモドバル監督、1995年度作品)を上映。
- 2000年 7月 協会創立10周年記念行事「私たちのスペイン展」を開催(於:県民サポーターセンター・2日～9日)。写真、絵画、手工芸(紙人形、



1992年 8月



1993年 3月



1995年10月



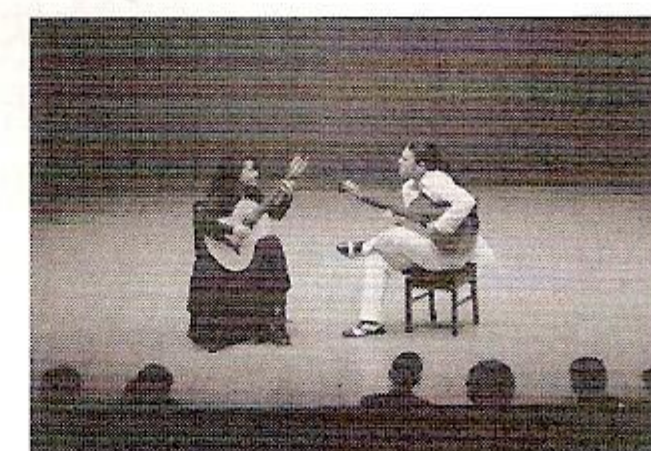
1998年 3月



2000年12月



2001年10月



2002年10月

- 押し花絵、タイル絵など) 展示。
- 2000年 7月 「協会創立10周年記念フィエスタ」を開催 (7日)。ホアン・レニャ駐日スペイン大使ご夫妻、ロンダ市の彫刻家ホセ・カベサ氏などがご出席。
- 2000年 9月 関西日本スペイン協会主催の交流行事で志摩スペイン村の「アンダルシアフェア」を見学。日本各地のスペイン協会が集合。当協会員は18名が参加。
- 2000年12月 下山会長がスペイン国王から「イサベル女王勲章オフィシャル十字型章」を受章。スペイン大使館において伝達式。
- 2001年 4月 下山会長の「イサベル女王勲章オフィシャル十字型章」叙勲記念祝賀会を開催。ホアン・レニャ駐日スペイン大使ご夫妻がご出席。
- 2001年 6月 駐日スペイン大使館主催「全国スペイン協会会合」に当協会代表4名が出席。
- 2001年 6月 「スペイン・サロン」カルメン・スペイン大使夫人を囲んで会員が懇談。
- 2001年10月 アンダルシア州経済振興公団および(財)横浜産業振興公社主催の「アンダルシア州フェア・in・横浜」(5日~14日)を後援。アンダルシアゆかりの「絵画」「写真」「記念品」を展示。また協会の事績を広報するパネルを展示実施する。
- 2002年 8月 協会のインターネット・ホームページを開設。
<http://www.yokohama-spain.org>
- 2002年 9月 文化講座「スペイン音楽サロン」スタート。(サルスエラ鑑賞)
- 2002年10月 「スペインギターの夕べ」を横浜みなとみらい小ホールにて開催(10日)。新進ギターデュオ「パネビアンコ&デル・モナコ」が演奏。
- 2002年11月 文化講座「絵画教室」スタート。
- 2003年 1月 ガリシア地方海洋汚染に対する会員有志からの義捐金を大使館を通じ送る。
- 2003年 1月 ハビエル・コンデ駐日スペイン大使が当協会の名誉会長にご就任。
- 2003年 5月 NHKテレビ「スペイン語会話」で当協会を紹介。
- 2003年 6月 故デル・カステージョ元駐日スペイン大使の50回忌追悼ミサ(山手教会)および墓参(外人墓地)。ハビエル・コンデ駐日スペイン大使ご夫妻ご参列。その後、ハビエル・コンデ大使歓迎会を開催。
- 2003年11月 港南区・横浜国際交流協会共催の「子ども国際ゆめワールド」に参加。
- 2004年 4月 「スペイン語教室」11講座開講。
- 2004年 5月 総会で、協会の名称を「横浜スペイン交流協会」から、「横浜スペイン協会」に変更することが承認された。スペイン語名:Sociedad Hispánica de Yokohama 愛称:「AIYES」
- 2004年 9月 ロンダ市に「日本さくら広場」(Plaza del Cerezo Japonés)完成。三崎輝夫会員寄贈のベンチ設置。
- 2005年 2月 スペイン大使館の庭園に、協会寄贈の桜(横浜緋桜)5本を植樹。
- 2005年 4月 ロンダ市親善訪問旅行を実施。「日本さくら広場」ベンチ贈呈式、関係者との親善レセプションなど。
- 2005年 6月 創立15周年記念イベントとして、日本各地にある「スペイン協会」重鎮を横浜に招待し、交流会を開催。同時に、「私たちのスペイン展」、会員アーティストによる「スペイン音楽の夕べ」を開催。ー予定ー



2003年 1月



2003年 5月



2003年 6月



2003年11月



2004年 9月



2005年 2月

会員に期待

副会長 飯塚 劭

15年前、「スペインに桜を植えよう」という下山会長の言葉に集った人々が中心になって生まれたのが、『横浜スペイン交流協会』の発足になりました。

当協会の活動のスタートは、すべてそこから始まったのです。

すなわち「スペイン・サロン」も、桜を植えるスペインを良く知るための場として開設されました。また「スペイン語教室」も、かの地に桜を植えに行った際、現地の人々と交流するための手段としての言葉を学習しよう、というわけです。

では何故「スペインに桜を植えるのか」この問いに対する答えは、本号に掲載されている齋藤副会長の、当協会の歴史を読んでいただければお分かりいただけると思います。

ところで、このスペインに桜を植えるという事業もひと段落し、今後もこの活動が続けることが、諸般の事情で困難になった今、これからの協会はどのような方向に向かって行ったら良いか、ここで、会員一同で検討する必要があるのではないかと思います。

桜いろいろ

特別理事 池本三郎

協会では創立15周年を記念して東京のスペイン大使館の庭園に横浜緋桜を寄贈しました。(関連記事22頁)

横浜緋桜 (よこはまひざくら) :

横浜市在住の白井勲氏が長年にわたり研究を続け、寒緋桜と兼六園熊谷桜との交配により1970年代初頭に作り出した新しい品種です。他の品種に比べ花の数が多く、葉が出る前に開花します。ソメイヨシノよりも濃い鮮やかな紅色が特徴です。開花は4月上旬。



一葉 (イチヨウ) : 里桜

花は淡紅色の八重咲きの中輪。花弁の重ねは30枚位。開花は4月中旬～下旬。花の中心から1本の葉化した雌しべがでることから名付けられた。



関山 (カンザン) :

里桜

花は濃紅紫色の大輪で花径5cm以上。花弁の重ね厚く40～50枚。開花は4月下旬頃。公園・街路樹に適する。



八重紅枝垂

(ヤエベニシダレ) :

花は淡紅色で枝が下垂れ。花弁が15～20枚。天然記念物に指定される。



紅豊 (ベニユタカ) :

北海道産

花は大輪で濃紅色の八重桜、花付きもよく育成は旺盛で高さ10m。開花は4月中旬。



それぞれの会員が、スペインというキーワードにそれぞれの思いを込めるのは自由です。しかし、協会という一つの組織に参画している以上、個々人の思いや活動とは別に、組織として活動方向のないままだに寄り集まっているだけなら、表現に問題があることを承知であえて言わせてもらうなら、それは烏合の衆と何ら変わりはありません。

当協会はスタートの時から、会員各自のボランティアによって支えられてきています。「執行担当の人々がやってくれることにただ付いていけば……」といった考えや、思いが少しでもあるなら、それはすぐに撤回していただきたいのです。そして、当協会を通してやりたいこと、やってみたいことを、手をあげて同士を集め、計画し総会の席で会員の皆さんに諮り、賛同を経たのち実行に移していただきたいと思います。

今ロンダには、植えた桜がしっかり根付いています。当協会もこれから、スペイン国民との交流をしっかりと根付かせて行こうではありませんか。

例えば、ロンダ市民に訴えかけ、植樹した桜の育成を見守る監視組織を作ってもらい、定期的にこの組織の人たちを横浜に呼び、会員のお宅にホームステイさせ、日本文化に触れさせる。同時に、協会からもロンダに行き、この監視組織の会員のお宅にホームステイさせていただき、スペイン人の生活を肌で感じる。こういったことでお互いに文化交流ができるでしょう。

これほど情報伝達の手段が発達した現代でも、日本人の中には、まだスペイン＝フラメンコ・闘牛という思いの人々が多くいることは事実です。フラメンコ・闘牛以外のスペインを知りそれを正しく多くの日本人に知ってもらうことをすることも、「スペイン協会」を名乗る私たちの任務でないかと思います。

そのためにスペイン音楽を知る「音楽サロン」、スペインという国の多彩さを学習する「スペイン・サロン」をはじめ、各種の活動の幅を広げていきましょう。

そこにおいて最も大切なことは、そのグループが固定化しないこと、固定化させないことです。誰でもが自由に参加できる雰囲気を常に持ち、決して外から来るものを拒むような雰囲気を持つてはいけません。身内の交流もできないものが、なんで国際交流ができるでしょう。

最後に会員各自がもう一度考えてください。「私は協会に何ができるか」「協会を通して何をやりたいのか」を。そして動いてください。そのあなたの動きがこれからの協会の運命を決めるのです。

協会は いま

事務局長 廣瀬 勝亮

ある日、全く見ず知らずの人々が「スペイン」という共通のテーマに惹かれて集まり、早くも15年になりました。集まって来た人々は「スペイン」という言葉にそれぞれの思いを込めていました。それは今でもそのまま続いているはずです。それがこの協会の成り立つ基盤になっているのです。その良い例が定期的に開催されている「スペイン・サロン」のテーマの多彩さに現れています。よくもこんなに色々のテーマを思いつくものだとか会員の私でも驚くほどです。それだけ皆さんの関心が広く、今まで関心の無かった別のテーマにも覗いてみようかという「野次馬」的好奇心に駆られて、さらに興味を深めていっているのではないのでしょうか。また、「音楽サロン」ではアマからプロの方まで、民謡や歌曲、サルスエラやピアノ曲、ポピュラーなものから童謡、宗教音楽までも含めて、レパートリーにとりこんで演奏をし、また鑑賞をしています。

協会自体も、様々な活動をして参りました。何と言っても「スペインでのさくら植樹」は多くの困難を乗り越えた上に実現した大事業でした。それがきっかけとなって友好の橋掛かりができました。特に国内では、それ以後、当協会の存在感が増し、「スペイン」が絡むと、問い合わせや行事への参加依頼が来るようになりました。また今年開設以来13年目になる「スペイン語教室」は当協会会員だけでなく、広く一般の人にも開放し、スペインに関心を持ってもらい、協会の活動にも理解と協力もいただければと続けています。

さて、私たちも15歳になりました。昨年には規約も一部改正して、活動しやすく致しました。また、2年毎の役員改選時には自ら、或いは適任者を推薦できるようになっています。この「AIYES通信」にも皆さんの色々なご意見を交換できるよう編集部もいろいろと企画をしています。Web委員会では協会員だけでなく一般の人にもホームページ (<http://www.yokohama-spain.org>) を通して協会の情報を流しています。これら

のことから、多くの会員の方が協会の活動に対して意見を述べたり、情報を得ながら、協会の活動に参加しやすくなってきています。

振り返ってみますと、当協会自ら行った活動あるいは行事が非常に少ないという指摘もありました。15周年記念行事はそれらの意見を踏まえて企画したものです。

「交流」という言葉には一方通行ではなく、お互いという意味合いがあります。これからは、機会があれば、日本のもの、あるいは横浜を代表するような文化をスペインに紹介したり、日本の生活を体験してもらえようなプログラムを考える。このような活動に必要なものは、会員の方の協力と情報交換で、それらを集約できるスペースという事になります。経済的に現時点では叶いませんが、これからいずれ取り組まねばならない課題の一つです。

世の中の変化は早くなってきています。さて、今度設立20周年のときにはどのような「横浜スペイン協会」になっているのか、皆様ご自身にも重ね合わせてそれぞれ思い浮かべてみては如何ですか？

会員のひとこと … 協会15周年に添えて

協会15周年に際し会員の皆様より一言を頂戴しました。

なるべく多くの会員のひとことを掲載しようと心がけましたが、残念ながら締め切りまでに原稿をいただけなかった方については、AIYES通信のバックナンバーから転載させていただきました。

- En el actual mundo de la globalización de las culturas, es para mí un gran orgullo ser miembro y profesor de español de esta maravillosa asociación. AIYES cumple quince años de esfuerzo y dedicación; espero y deseo que la asociación cumpla otras quince años más, siguiendo el camino trazado de acercamiento cultural entre Japón y España, y siempre con esa diversidad de actividades que la hace única, y, sin ninguna duda, la mejor de Japón. (Joan Dorado López)
- 私として最も印象に残るのは、ロンダの桜植樹のことで、現在立派に実を結ばれたことは大変喜ばしいことであります。私は当初より桜植樹の業務にかかわり、何度も現地を訪問した経験があり、公的にも私的にも多くの困難があつたにもかかわらず、長期間にわたる皆様の多方面のご尽力によって、今日に至ったことを改めて思い、今後とも十分な留意をし、美しい桜が咲き続けるよう念願しております。(浅野洋子)
- 転勤族の私が、横浜で偶然にもこの協会と出会えたことはとてもラッキーなことでした。スペイン大好きな皆様から色々なことを教えていただいたり、また一緒にスペイン語を学んだりとても楽しく過ごさせていただいております。これからもどうぞ宜しくお願い致します。(飯田京子)
- 現在の会長である下山さんと(齋藤さんも一緒だったが)初めてスペインへ行ってから早や20年余、そのときのことが懐かしく思い出されます。下山会長が心血を注いで取り組んだ、かの地への桜の植樹、いま見事に咲いている。いまだにこの目で見ることがかなわず残念の一言、いずれ是非見たいと思っています。(安藤和男)
- <一冊の書籍が決めたライフワーク> もともと外交史に興味を持っていた私が、四十年ほど前のこと神田の古書店で見つけたのが、幸田成友博士の著書でした。その日から私のライフワークが、日西交流史になったのです。以来、何度もスペインを訪れ、時には長期に渡る滞在をしたりしながら、古文書館を訪ね歩いていますが、その際受けたスペイン人からの親切な応対に応えるべく、協会運営のお手伝いをさせていただきます。(飯塚劭)
- 去る2月24日、下山会長さん達とスペイン大使館へ桜の苗木「横浜緋桜」5本を植樹していただくことができました。毎年、春には鮮やかな紅色の花を咲かせ、大使館関係者の方々に愛でいただけることでしょう。

この度は会長さんからお話があり、私のライフワークの桜のことでご協力できましたことは本懐とするところです。(池本三郎)

- スペインの中でも特にカタルーニャ地方の文化や歴史、言語に興味を持っております。カタルーニャはイベリヤ半島の東北部の地中海沿岸にあり、フランスとの国境をもち、山や海と変化に富んだ地方です。その地で育まれた言語カタルーニャ語もまた魅力のある響きがあります。情報交換等出来る場があればよいかと思えます。(岩橋和喜)
- 会員の皆さま、お変わりなくお過ごしのことと、推察申し上げます。さて、最近の私のスペイン語学習は、マドリードの友人とのメールを楽しむことにあります。この他にスペインの歴史を学びたいと、思っております。去る4月23日の「無敵艦隊敗因の周辺」は、とても興味つきないテーマです。(大河原潤一)
- スペインの歴史に関心があり、その舞台の城や街をいつか訪ね歩きたいと思っています。AIYESの10周年は少し前の事と思っておりましたのに、もう早や今年は15周年。その間スペイン・サロンを通して、会員の方々や講師の方々と触れ合いを持てた事、とても嬉しく思っています。これからもスペイン・サロンを楽しみにしています。(大竹智栄子)
- 私は蟻でした。コツコツ勉強・研究に励んでいたある日、交通事故で九死に一生を得て、子供の頃から夢見ていた他国での生活に踏み切ったのです。ギリギリスのように良く遊び、気がつくとスペインでの生活も早六年の月日が経っていました。そろそろ潮時と帰国してみると……、アーク文明の変化は早いもの。浦島太郎ならぬ、浦島花子となっていたのです。(鎌田暁子)
- 70歳を過ぎてからスペイン語の勉強を始めた。かなりの年が経ったが、喋ること、聞くこと何れも全然駄目である。ところがスペイン語の表現の仕方が実に面白い。スペイン人の性格そのものである。今でも文法の本を開いては、あのややこしい表現を楽しんでいる。スペインを知る一つの道と言えよう。基本的な文法を重点とした教室が、スペイン協会にあれば嬉しい。(川口三郎)
- AIYES15周年おめでとうございます。東京に住んでいますので、EVENTOに参加することがままならぬ者ですが、Ronda市との交流などの情報に接し喜んでおります。友人がAndalucíaに住んでいますので、時々AIYESの話をしあっています。今後ともよろしくお願いします。(熊谷一昭)
- 新聞で当協会設立の記事を見つけ、即入会。それから15年の歳月が経ちました。一番の収穫は、たくさんの素晴らしい人達に巡り会えたこと。次に13年前より始めたスペイン語教室を通して、会員相互の親睦と、スペインをより身近に感じてもらえるように、少しは貢献できたかなと思うことです。これからも皆で力を合わせ、楽しくAIYESを盛り上げて行きましょう！(栗山由美子)
- スペイン語を習い始めて5年、まず性数一致、今は動詞の活用で苦労しています。ゴルフと比べてみました。大橋巨泉氏の言、いい時はハーフ30台がでるが80は切れないHD12、3がアベレージゴルファーで、ここまでたどりつける人は1割との由。スペイン語の接続法を習得したレベルでしょうか。私はやっとアベレージが見えた処かも知れません。ゴルフでシングルを目指した頃を思い出しながら『クラベル』教室でがんばっています。(黒田隆洋)
- 春田美樹画伯の描くアンダルシアの風景画にすっかり魅了され、ロンダのアトリエにお邪魔に上がったのは16年前のこと。そして、氏が「桜植樹でスペインとの交流を」と尽力されている事を知る。そして翌年AIYESが誕生。あれから15年、いろいろな形で桜は確実に花を咲かせている。春田さんは既に遠くへ旅立たれてしまったが、現在の活動をどこかで見守り下さっていることだろう。せめて私も花びらの一枚くらいにはなりたいものである。(児玉喬夫)
- スペインに憧れ、入会をお願いに下山会長をお訪ねして早くも15年、会の方々の積極的な活動は益々盛ん

- になっている様に思います。創立以来ご活躍された下山会長夫人が昨年他界された事は、とても淋しく、残念でなりません。宏子様を決して忘れることは出来ません。スペインを旅し巡礼者と出会う事も幾度かあり、今、私はその巡礼の道サンチャゴ迄歩いてみたいと思っています。(児玉安代)
- 約3年間駐在したマドリードより帰国後まもなく、横浜スペイン協会に入会させていただきました。現在毎週(土)にセレスの栗山先生のもとで楽しい仲間の皆さんに囲まれスペイン語を勉強しています。慌ただしい暮らしの中で、スペイン語の響きに癒されまた勇気付けられながら毎日頑張っています。第二の母国スペインで再び生活する事が私の夢です。これからもどうぞよろしくお願い致します。(犀川昌子)
- 2004年12月より入会させていただきました笹井と申します。中米に住む機会がありまして、スペイン語と出会いそれからはスペイン語を通じていろいろ興味を広げております。春めいてきたこの季節に花粉症で毎日辛い思いをしておりますが、今年も新しい出会いを求めて頑張りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。(笹井恵子)
- 10年ほど前、教室で高柳先生にスペイン語はもちろん、チンチョン村のベレー帽のおじいさん、クエンカの宙吊りの家、アルマグロのレース編み、そしてトルティージャ、ガスパチョの作り方等、沢山の事を教えていただきました。今では毎年スペインを訪れ、パラドールでお茶をしたり、バルでワインに生ハムをつまんだりした後、中世の町並みを散歩して楽しんでいます。(大田(だいだ)裕美子)
- 店の名はアマポーラ。コーヒーの芳香がお客様を迎えます。ご希望なら、スペイン音楽に耳をかたむけ、スペイン各地の写真集をくりひろげながら、うつらうつらもよし、友人と語り合うのもよし。でもこれは実現不可能な私の夢です。協会員となって15年。楽しくスペインやスペインの方々とかかわってきました。これからは、日本の人たちに、スペインの真の姿を知ってもらうため、何らかの方法を考えていきたいと思っています。(高柳治子)
- 私のスペインとの出会いは1974年に初めて妻と旅行したことに始まります。途中割愛しますが、9年前の1996年に家族4人でスペインを訪れたのが最後になっています。いつ行ってもスペインに入るとなぜかホッとします。不思議な国です。また我が家の環境が整ったら、妻とスペインに行ってみようと思っています。(角井正義)
- 2年前の夏、横浜の会員の皆様と離れ、会社の転勤で札幌に行きました。北の大地では、北方領土に行つてロシア語には触れましたが、スペイン語は遠ざかってしまいました。この2月、横浜に帰ってきて再出発。AIYESの文化講座、イベント等に参加してスペインの今日を知り、スペイン語もさらに勉強したい。今年は、どんなことにもチャレンジ精神でいきます。(露久保孝一)
- 横浜スペイン協会創立当初に入会して、もう15年。協会は今や私の生活の一部のような気がします。多彩な会員の方々から、スペインに関する多くの知識、情報を教えていただき、スペインに対する興味は益々大きくなってきました。スペインを旅行するにしても、その歴史を知っているとなんと感激が深くなることか！スペインへ行く度、胸がわくわくしています。(寺原瑛子)
- 東京から横浜に転入したのは25年前。その当時、横浜にほとんど知り合いはいませんでした。東京の職場まで往復するだけの生活を変えなければと思い始めた頃、横浜スペイン協会の設立の呼びかけ。すぐに飛び込んでから15年。横浜とスペインをキーワードに素晴らしい人々との出会いとスペイン文化との触れ合いがありました。ロンダに2度植樹した桜の花見をこの4月にできたのはうれしいことです。(中村瑛子)
- 入会してまだ日が浅いのですが、スペイン・サロンに出席させていただき、毎回大変興味深いお話を聞くことができ、喜んでいます。もう15周年になられるのですね。もう少し早く知っていれば今までの講演会にも出席できたのに、とそれが残念です。これからもスペインに関わる情報発信基地として、発展されることをお祈りしています。(並木陽子)

- 17年前、父と私はレオン県ファベロ村にある義弟の実家を訪れた。温厚な農夫だった彼の父は、私達を大歓迎してパンを焼く石窯やぶどう搾り機を見せてくれた後、庭にいる子羊を指差し「あれをご馳走しよう」と言った。遠来の客への最高のもてなしだろうが、私達は無邪気に遊ぶ子羊をもう少し生かしておいて欲しいと頼んだ。(野波克子)
- 発足15周年おめでとうございます。横浜スペイン協会のことをNHKの番組で知り“スペイン大好き”の私にとってはじっとしてはいられず、さっそく連絡をとり、入会させて頂きました。それ以来、知ることの感動、胸さわぎさえする興味、行動によってできる満足、これからの協会の歩みとともに、自分にもよき思い出がたくさん作れたらいいと思っています。(秦恵美子)
- スペインに関心を持ったのはかれこれ十数年前にさかのぼり、帝劇で興業されていた「ラ・マンチャの男」を観たのがきっかけである。その時代背景を調べていく内、スペインの歴史はイスラムの世界、キリスト教の世界、植民・内戦と続き今起こっている世界の紛争の殆どを経験していると思うようになった。フラメンコや歴史的建造物にも興味はつきない。ラ・マンチャの男の夢にあやかりペンを片手にスペイン語教室に突き進んでいるが一向に明かりが見えないのが現実である。スペイン好き同士、お互い共感したり啓発されたりしながらの人生もスペインという国の奥深い多様性ゆえに面白いのではないかとと思っている。(久安邦明)
- 耳鳴りの症状緩和になればと、軽い気持ちで習い始めたスペイン語。今では「スペイン」にすっかり魅了され、短期留学、サンチャゴ巡礼道(一部)、カナリヤ諸島テネリフェへの旅、レアルマドリードのサッカー観戦など協会入会以前には、想像だにできなかった体験をしています。会員の皆様や講師の先生方のおかげと感謝しています。(星野りえこ)
- 当協会に創立10周年の年に入会させて頂きましたので今年で5年目となります。その間、スペイン・サロンやAIYES通信の編集委員、Web委員、スペイン語教室の担当などに微力ながらお手伝いさせて頂きました。また毎年スペインに絵画旅行に出かけたり、スペイン好きな仲間と酒を酌み交わしながら団欒するのが何よりも楽しいと実感している毎日です。これからもより一層ボランティアに活躍し友好を深めたいと願っています。(牧瀬貢)
- 「スペインの魅力は？」と問われて、いろいろ思い浮かべる事ができます。文化、芸術、歴史等々奥深く多種多彩でもっと知りたい、知れば知る程その魅力にはまる自分が居ます。訪西がままならぬ今、会報を通じて最新情報の入手、イベント企画などを得て、大好きなスペインと私をつなぐ架橋、それがAIYESなのです。(増田啓子)
- <実年齢マイナス10を目指して> 以前海外旅行は、私の年齢では同伴者が必要でした。私も一昨年より椎間板ヘルニアになり、車椅子状態になるほどでした。しかし、横浜スペイン協会のロンダ市桜親善訪問へ参加したく、スペインへの夢を膨らませリハビリに努力、現在普通に歩けるようになりました。マイナス思考の多い現在の世の中ですが、私は実年齢マイナス10、即ち10歳若くなるべくチャレンジしております。(松波寿美子)
- スペイン語を学ぶことから始まった私のスペインへの興味は、一人では面白くない。仲間があつてのものです。この会では、どんな切り口からでもスペインが飛び出し、広く深くそして楽しく盛り上がる場がありますね。これからもどうぞよろしく願いいたします。そして役員の皆様、いつもありがとうございます。(松本益代)
- スペイン大好きな仲間とスペインの大切な思い出を分かち合いたいと思います。今までスペイン・サロンで文化を学んだり、歴史を話していただいたり、スペインでの経験を語り合ったりしました。地方色豊かなスペイン、まだまだ知りたいことがいっぱいあります。これからも楽しいサロンが続くよう願っています。(宮川美句子)

- 10年間理事をさせて頂きましたが、少しでもスペインとの友好のお手伝いが出来たとしたら嬉しいです。涙を流したこともありましたが、これも貴重な経験だったと、今は思っています。スペインに植えた桜の下で各地の協会の方達と集える日が来ることを願いながら……。 (宮崎紗伎)
- ひょんなことからスペインが好きになり、当協会に入会しました。入会してからはスペインに行くこともなく、悶々としています。現在は協会HPのメンテナンスをやらせていただいております、会員の皆様の活動や提供されたスペインがらみの情報をスペイン好きの人に発信しながら、私もその情報を楽しんでおります。これからもスペインに関する皆様からの情報をお待ちしております。 (村田誠)
- スペインをこよなく愛する人達の輪が広がって15年の年月が流れ、今の様な素晴らしい会に発展したことに、心からのお慶びを申し上げます。皆様に何かとお世話になっている私、歌うことで少しでもお役にたつことが出来ればと願っております。若い時から天才的に名前とお顔を覚えられない私ですが、これからはどうぞよろしくお願いいたします。 (柳貞子)
- 短期集中型でこれまでにヨーロッパの言葉をいくつか覚えてきた私にとってスペイン語やケルト語は最後の難関。年齢と共にスペイン語をマスターするのに時間がかかるようになりました。それでも言葉は生きる為の手段であり異なった文化を理解する楽しみのために必要不可欠な手段と思って取り組んでいます。きれいなスペイン語が話せるようになるのが目標です。 (山崎宗城)
- ラス・パルマスに40年すむ吉孝也 (Yoshi Koya) でございます。IT電話skypeのメンバーです。この5月で74歳になります。新潟に生まれ、水産大学を出て10数年マグロ船にのり、縁あって、ラス・パルマスの船舶代理店にほんの数年の契約でしたが、あっという間に40年たってしまいました。腸閉塞の持病があり飛行機の長旅は無理ゆえ、この先もラスに住み、この地に生を終えることになるでしょう。日本に難破船で漂流し、徳川家康に仕え、三浦安針という名前で三浦半島で生を終えたスコットランドの船乗りアダムスをわが身におきかえています。どなたか、三浦安針の資料をお持ちでしたら、e-mail: koya@canaldirecto.comに情報賜れば幸甚です。 (吉孝也)
- 大分前に入会しましたが、なかなか行事や会合に出席出来ず所謂「幽霊会員」になってしまい、申し訳なく思っております。これからは新入会員のつもりで各種の会合等には、出来るだけ出席させていただいて会員の皆様方と交流を深められれば幸いだと思っておりますので、改めまして宜しくお願いいたします。 (渡壁福三)
- 白ワインの注がれたグラスに、夏の夕日に染まる市庁舎が映えます。その頃からサラマンカのプラサ・マジョール (大広場) には三々五々と仲間が集い、共通の話題で会話や音楽やワインを楽しみます。魅力的な場です。AIYESも会報もわれわれの大切なプラサ・マヨール。¡Bienvenidos! (渡邊昭夫)

☆1990年～1999年に入会した会員の当時のひとこと

- スペインの歴史に興味があり、ギターも好き。またガールスカウトのリーダーをしている。これらの活動を通じて、スペインとの交流を深めたい。 (石元道子) ・1990年11月分再録
- 20年前スペイン語を学んだ。東の果て日本と西の果てスペインとの文化・社会の相違点と共通点に興味をもっている。少しずつ時間をかけて (poco a poco) 理解を深めたい。 (伊藤秀夫) ・1990年11月分再録
- みなさんと一緒にスペイン旅行をしたい。弟がフィリピン人と結婚している。フィリピンの社会には、カトリック教会をはじめ、スペイン文化の影響が色濃く残っている。 (臼井澄江) ・1990年11月分再録
- 30年前、大学の第2外国語としてスペイン語を学び、以来関心をもち、勉強を続け、スペイン旅行に備えている。 (岡田重男) ・1990年11月分再録

- 20数年前、セビージャの市長に手紙を書き、現地で、結婚式を挙げた。以来スペインに何かお返しをした
いと家内と話し合ってきた。桜の木を送る企画には大賛成で、ぜひ協力したい。(廣瀬勝亮)・1990年11
月分再録
- 今から25年ほど前のこと、県立図書館で行われた故佐久間正先生のスペイン語講習会に参加したのが、私
とスペインの出会いです。その後知れば知るほどスペインの不思議な魅力にひかれ、離れられなくなりま
した。(飯塚康子)・1994年7月分再録
- 下山会長の奥様と小学校からの同級ですが、さくら交流基金の話聞き賛同し入会しました。甥がマドリ
ードに在住しており、訪問するのを楽しみにしています。また、協会主催のスペインツアーの企画などが
あるといいと思います。(岡本賢子)・1994年7月分再録
- 世界史を語るには、スペイン史を知らなければ語れないほど、スペインは世界に大きな影響を与えてきま
した。交流協会を通じ日本と古くから友好関係にあるスペインの歴史・文化と人々に触れ、親善関係の深
化に努力して参ります。(加瀬隆康)・1994年7月分再録
- 15年ほど前にクラシックギターを習い、主にスペインの曲を弾いていました。初歩からスペイン語を勉強
するため栗山教室に入り、2年になります。協会主催のスペインへのツアーがあれば参加し、会話を楽し
みたいと思っています。(平尾佐代子)・1994年7月分再録
- 以前からスペイン及び中南米に大変憧れておりました。学生時代に学んだスペイン語も錆びつくばかりで
したが、教室と協会に入会し、更に、新しい友人と新しい事とにどんどん挑戦したい！(石井加奈弘)・
1995年6月分再録
- 今、スペイン語を勉強しています。将来、スペインで日本語の教師をしたいと考えております。
(森崎佳子)・1995年6月分再録
- 横浜にスペインとの交流を目的とした会ができたことをつい最近知りました。25年間スペイン料理に携わ
っていますので、早速入会させていただきました。(大森悠爾)・1996年10月分再録
- 南スペインの白い家、青い空、そして窓辺を飾る赤い花。そんなスペインの魅力に曳かれ、スペインを描
いて十数年になります。描いても、描いても描ききれないスペイン。これからもまだまだ当分の間、私の
スペイン通いは続くことでしょう。(島津豪亮)・1996年10月分再録
- 1990年3月に定年退職し、何かを始めようと考えていた矢先に市の広報でスペイン語講座の開設を知り、
始めたのがきっかけです。1992年から3年間神奈川大学に聴講生として通い1993年にはサラマンカ大学の
夏期講座に女子大生9人と共に参加しました。その時の引率教授が協会顧問の石井陽一先生で、不思議な
御縁だと思っています。こうして6年余りスペイン語とスペインやラテンアメリカの歴史や文化に関心を
持ちながら今日に至りました。同好の士との交流、情報の入手等の面で協会に期待しています。
(辻和也)・1996年10月分再録
- スペインが大好きで、大学でスペイン語を専攻しています。母が会員で楽しそうなので、私も参加してみ
たくなり入会を決めました。(中山亜姫)・1999年10月分再録

☆2000年～2005年に入会した会員の入会時のひとこと

- スペインに魅せられて20年。あっという間に20年。最初はスペイン人と話しがたくて習い始めたスペイ
ン語。一度スペインの地に足を踏みいれたらエスパーニャのことが知りたくなってどんどん興味が広がっ
て、いつしか年に一度はスペイン暮らし。通訳・翻訳業もしましたが、最近ではスペイン文化研究家を名

のり、おもに闘牛と食のことを日本に紹介する活動をしています。(足立友香里)・2000年10月入会

- 現役の頃、スペイン語圏で仕事の機会があり、語学に興味を持ちました。忘れてしまうことばかりですが、少しでも刺激になろうかと、スペイン語にチャレンジしています。(太田邦雄)・2003年9月入会
- 駐在したスペインより帰国してすでに10年もすぎ、すっかり忘れてしまったスペイン語を再び学びたく、当協会の講座と共にAIYESの活動を知り早速入会させていただきました。何かお役にたつ事があれば幸いです。(尾見展子)・2000年12月入会
- 10年くらい前、スペイン語の勉強を始めました時、会員の真木幸子様と出会い、それ以来お付き合いをさせて頂いております。彼女から協会の魅力あるお話を伺い、スペイン大好き人間の私も一員にさせて頂きたく入会しました。(倉沢穂香子)・2003年5月入会
- 10年前スペインから帰国。先日マドリード時代の友人で、当協会の会員と出会い、スペイン大好きな人たちの仲間に加えていただきたく、入会しました。マドリードでは、スペイン人に空手を指導していました。(斉藤守弥)・2001年11月入会
- 大学で習得したスペイン語(4年間)は、50年を経過し忘れ去った勘を取り戻したい。(澤田真人)・2003年5月入会
- アルゼンチンタンゴが大好きで、タンゴレッスンを通訳なしで受けたいのでスペイン語を習いたいと思いました。スペインも3回行きました。市場で買い物も楽しかったです。そして国民性も好きです。(清水昭子)・2004年5月入会
- 娘を通してスペイン語圏の国々を知るきっかけが出来、スペイン語に関心を持つようになりました。ABCから始めてまだ、よちよち歩きですが、皆様のお仲間に入れていただくのを楽しみにしています。(田中頼子)・2002年4月入会
- 両親は生粋の京都人。私も“はんなり”おとなしい中年おばさん。それなのに何故か陽気なラテンのテンポが、妙に気になる。「スペインで暮らしたい!」と言う私と、「アメリカで暮らしたい!」と言う夫。う〜ん、夢は夢のままかな……。 (谷本敬子)・2002年4月入会
- スペインの地方の小さな村々、チンチョン、グアダルルーペなどが大好きです。(塚本純子)・2003年8月入会
- イベスコクラスで勉強させていただいております。スペインのことをもっと知りたくて入会しました。(中根雅子)・2002年12月入会
- 10年前、当協会の飯塚様ご夫妻のご案内で、日西交渉史ゆかりの地を訪ねました。その時の印象が忘れられなくて、昨年まで8回アンダルシアのマラガとその近くに2~3カ月滞在し、スペイン国内の小旅行をするようになりました。スペインは、何度行っても興味がつきません。会員として、スペインを身近に感じられたら嬉しいです。(根岸光子)・2002年4月入会
- 学生時代からスペインの地理、歴史、生活、文化、言語etc. 全てに興味があり、今後もコンタクトを保っていきたいと思っています。何事によらず関連情報を頂ければ幸いです。(平山隆一郎)・2001年6月入会
- 昨年5月に訪れたスペインに対して、興味が尽きません。そんな折10月「アンダルシア州・in・横浜」が開催され、なつかしく三度もでかけました。その時、横浜スペイン交流協会があることを知り、早速入会

することにしました。協会の活動に協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(船山晴子)・2001年11月入会

- 昨年9月から、協会のスペイン語教室「ヒラソル」で勉強を始めました。スペインが大好きで良く行きます。そのため、なるべくたくさんのスペインに関する情報を入手しておきたく入会しました。

(古屋美那子)・2002年2月入会

- 協会での活動を通して、スペインとの接点を持つことができればと思い、入会しました。(宮岡栄一)・2002年2月入会

- 以前スペインに住んでいたことがあり、スペイン好き人間の一人として、スペインとのかかわりを持ちたいと、考えたしだいです。(宮原和彦)・2004年11月入会

- 日本のアニメーションとコミックをスペインに紹介するための、翻訳および著述を行っています。私の場合翻訳といっても、日本語からスペイン語というケースで、スペイン人の協力を得ながらの作業です。よろしくお願いします。(武藤崇)・2001年9月入会

- 塩野七生さんの『ローマ人の物語』を読んで、ラテン系の言葉のひとつをぜひ覚えたいと思いました。結局、スペイン語を定年退職後の楽しみのひとつとして選びました。それは“人生の楽しみ方”を一番良く知っているスペイン人と、その文化を通してラテン的な生き方を模索するのも面白いと思ったからです。(村岡静生)・2005年1月入会

- スペインのセビージャで勉強してまいり、現在フラメンコの歌手をしています。また、フラメンコの正しい知識を広めるために、フラメンコ理論のクラスも開講させていただいております。皆様とスペインの文化・音楽についてお話しさせて頂ければ幸いです。(諸田京子)・2002年7月入会

- スペインの音楽に魅せられて、レコードの収集をはじめてから40年。定年後の楽しみとしてスペイン音楽史を勉強しながら集めたレコードを整理し、ディスコグラフィーを作っております。(安田秀之)・2000年10月入会

- 1980年から約4年弱、スペインのマドリードに駐在していました。スペイン文化・美術・その他に大変興味を持ち、また大好きです。(安田美恵子)・2000年10月入会

- スペインは、私が長年打ち込んでいるパッチワークキルトのデザインの宝庫です。ムデハル様式の美しい紋様や装飾タイル。それに陽気なスペイン気質と、おいしい料理に魅せられて入会しました。いつも旅行には、カメラとビデオ、スケッチブックを携行しています。(山下皐)・2003年5月入会

- 2001年10月8日、ワールドポーターズに出かけました。そこで“アンダルシア州フェア・in・横浜”に遭遇。前々からスペインに興味を持っていた私は、たくさんのイベントに時を忘れ、楽しく過ごしました。その折“横浜スペイン交流協会”の存在を知りました。めぐり合いに感謝。何時の日か、歴史・文化・芸術など多彩な魅力あふれるスペイン旅行を夢見ています。(山下幸子)・2002年5月入会

- 26年間美術館で暮らしています。専門はスペイン美術、とくにゴヤです。今年4月1日から、みなとみらい地区にある横浜美術館に勤務していますので、みなさんお暇を見つけて、どうぞお越しください。(雪山行二)・2002年5月入会

❀❀ ロンダ市親善訪問報告 ❀❀ 寺原 瑛子

4月4日(月)午前10時ごろ横浜スペイン協会のロンダ市親善訪問団一行は、まずロンダ市庁舎を表敬訪問しました。市庁舎の一室に、ロンダ側はアントニオ・マリン・ララ市長、マリア・パス助役(当協会10周年記念の時、市代表団で来浜された方)、ダニエル文化担当官、ペドロ・フェルナンデス市会議員が出席、日本側は、下山会長、廣瀬事務局長をはじめとして14名が参列しました。ロンダ市長と下山会長が友好の挨拶を行った後、三崎理事夫人が、“日本さくら広場”に設置されたベンチのお礼と感謝の意を表されました。その後下山会長が日本からのお土産に兜を贈呈、ロンダ市からは当協会にロンダの風景画、日本人参加者全員にロンダ市の美しい写真入りガイドブックと地図、ロンダ市の紋章パッチのプレゼントがありました。



▲訪問団団長の挨拶

その後、“日本さくら広場”(闘牛場から北へ続く大通りを行きPlaza del Ahorroを越え、さらに真直ぐCalle Jaénを行って突き当たりのロータリー)へ全員で移動しました。広場は二つに分かれており、一方の中心に横浜スペイン協会と三崎さんのお嬢さんの名前が刻まれた石造りのベンチ、もう一方に画家で彫刻家のホセ・カベサさんが日本に来た時見た仏塔をイメージして作ったというモニュメントが、緑色濃い芝生と色とりどりの花に囲まれてあります。そして周囲には接木をして背の高い桜や、背の低い桜、花の色も違う数種類の桜の木が11本植えられており、かわいい花もちらほら咲いていて皆感激の声をあげました。

公園管理官のフランシスコ(パコ)さんが準備しておいた、ロンダを象徴するピンサポ(Pinsapoー世界にロンダとウラル山地にしか存在しないという木)をマリン市長と下山会長がいっしょに植樹しました。日本の桜とロンダのピンサポが“日本さくら広場”で共に成長し、長く友情の証となるようにとの願いを込めての完成セレモニーとなりました。この模様は地元のラジオとテレビ局も来て取材していました。

毎日桜を世話して下さっているパコさんの話によると、横浜スペイン協会が贈呈してロンダ市内で今育っている桜の木は、30本をはるかに越えているとのこと。帰り道カベサさんの案内で、なかでも一番木が大きく育って、今美しい濃ピンクの花が満開の軍人宿舎の庭の桜を見ました。またアラメダ公園には10本、ブラス・インファンテ公園には8本の桜があるとのこと、公園のあちらこちら見上げるほどに大きく育った桜の木に、ピンクや白の花が咲き誇り人々の目を楽しませていました。

午後2時から、パラドールで昼食会が行われ、ロンダ側はマリン市長、マリア・パスさん、フェルナンデスさん、カベサさん、春田画伯未亡人のレメさん、民族舞踊家のアデラさんが出席されました。「さくら、さくら」の歌で始まり、テーブルには日本から持参した桜の花(イミテーション)が飾られ彩りを添えました。なごやかに歓談しながらのゆっくりとした食事。そして最後に会員の正木さんがセビージャナスを歌うと、「ビバ セビージャ」の部分を変えて「ビバ ロンダ! ビバ ロンダ!」の歓声と手拍子が皆の間から自然と沸き起こり、大合唱となりました。桜が見事に咲いたように、ロンダと横浜の長年にわたる友情の花開く瞬間を見る思いでした。

翌日は、カベサさんが全員を夕食に招待してくださり、レメさん、フェルナンデスさん、パコさんのほかにも、当協会10周年記念の時横浜に来られたラサンタさんも駆けつけて下さって旧交を温めることが出来、とても打ち解けた雰囲気楽しいひと時を過ごしました。

ロンダの人たちの温かいもてなしは、まさに私たち横浜スペイン協会に対する信頼と友情の表われで、長年積み重ねられた交流の歴史を物語るものなのだと感激したロンダ滞在でした。

一斉に咲きましたね
この地に根をおろし
人々にやさしい光を放ち
旅々に語りかけるように
風とゆれる春
花びらがまい散る時
私は両手をかざす
花びらが舞いちるとき
次の季節を心まちにする
あなたは
旅人の足跡を見守る
眠ったふりをして

(ロンダ市にて 秦 恵美子)

スペイン大使館に横浜緋桜を植樹

2005年2月24日（金）午前11時、2トントラックに詰まれた桜の苗木5本と、会長を含めた協会の有志4人、さらに池本特別理事と専門の職人さん2人が、六本木のスペイン大使館前に集合し、重い鉄の扉の中に入りました。前日には、東京も風速27メートルという春一番が吹き、作業が出来るか危ぶまれていましたが、嘘のような穏やかなやわらかい日差しの中で、一本一本丁寧に大使館の庭園に植えられて、午後3時半に無事終了しました。

昨年新装なったスペイン大使館に、当協会のスペインとの交流のシンボルである桜の苗木を寄贈したいむね、かねてから大使に申し出ていたもので、会長、副会長それに池本特別理事、白井勲さんとで事前に大使と打ち合わせをした折には、大使自らが場所を選定して下さるなど積極的なご配慮を頂きました。

植えた苗木は、港北区在住の白井勲さんが開発された、「横浜緋桜」という種類で、鮮やかな濃いピンク色の花が特徴で、桜の中でもとりわけ「スペイン」の印象を醸し出すのに十分な風情のものです。白井さんが当協会のためにと特別選りすぐった苗木をご寄付して下さい、池本理事の采配で短時間のうちにつつがなく作業を終了することが出来ました。既に小さな蕾が沢山ついているものでした。



▲当日参加の皆さん

こんな活動をしていますスペイン・サロン

山崎 宗城

●スペイン・サロンのあゆみ

スペイン・サロンは、横浜スペイン協会の歴史と共にあります。第1回は1991年6月8日当時の上智大学教授清水憲男氏による講演「遠くて近いスペイン」に始まりますので、2005年は14周年を迎えることになります。

この間、会員の中からも様々な分野に造詣の深いメンバーもあり、その知識や経験を語っていただく機会もありました。例えば現副会長の飯塚勲会員の「支倉常長の旅」（5回講演）、参与の柳貞子会員による「スペインの歌」、牧瀬貢会員による「スペインスケッチ旅行」、松本益代会員による「今、スペイン映画が面白い」、エミリオ・オルモス会員による「日本文化とスペイン文化の違い」等が思い出されます。

また、当協会特別顧問・元スペイン大使の林屋永吉氏の「私とスペイン」、同じく特別顧問・元スペイン大使 坂本重太郎氏の「私から見たスペイン」、さらに2001年6月のスペイン大使夫人カルメン・レニャさんを囲む会もありました。

さらに、スペイン・サロンの講演の核となっているスペインの歴史・文化について研究をされている大学教授や、作家の先生方の話を聞くことが出来ることも大きな魅力です。この点で、上記の清水憲男先生の他に、荻内勝之東京経済大学教授、長南実清泉女子大学教授、石井陽一神奈川大学教授、川成洋法政大学教授、小海永二横浜国立大学教授、藤田一成神奈川大学教授、作家の小西章子さん、中山瞭さん、西川和子さん、渡部哲郎横浜商科大学教授、立石博高東京外国語大学教授から興味深い話を拝聴し、本年4月の講演者岩根圀和神奈川大学教授の講演へと続きます。しかし、特筆すべきは最後の1回分を残して急逝された、故佐久間正清泉女子大学教授の、日西交流史の講演です。結局毎月1回11回続き、先生のすばらしい話術と相まって、歴史を学ぶことの面白さを改めて教えられました。



▲話し手も聞き手も熱心に



▲わかりやすい楽しい話題が身近で

スペイン美術に関しては「日本人の私が見たスペイン」土屋嘉久画伯、

「スペイン美術館巡り」横浜美術館館長雪山行二氏の講演がありました。さらに、桜について、ワインの話、旅行や料理についての楽しい会合や新年には音楽つきの楽しい新年会を開催しています。

これからも会員の皆様の要望も入れて価値あるスペイン・サロンを企画していきます。皆様ふるってご出席ください。



▲新年会は音楽で一段と楽しく

スペイン・サロンへのお誘い

6月は横浜スペイン協会15周年の行事のためスペイン・サロンは7月に開催いたします。

●2005年度7月例会のお知らせ

7月のサロンは久々に舞台を中南米イベロアメリカに移して、中南米の総領事・大使を永くお務めになり、2005年1月から日本国際問題研究所の客員研究員となられた伊藤昌輝氏にお話をさせていただきます。

日 時：7月16日(土) 10:30～12:00

場 所：県民活動サポートセンター 303号室

横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 TEL: 045-312-1121

講 師：伊藤昌輝氏 在メキシコ大使館、在ドミニカ共和国大使館、イベロアメリカ協力院（スペイン）、在アルゼンチン大使館等勤務の後、在マイアミ及びリオデジャネイロ各総領事、駐ホンジュラス及びベネズエラ大使歴任。2004年退官。現在(財)国際問題研究所 客員研究員。国連改革担当大使（外務省参与）。

著作：“El Japón: su historia, cultura y relaciones internacionales” 2004, Universidad de Los Andes。翻訳：「メキシコ人類学博物館」1969 講談社。「コルテスの報告書簡」（大航海時代叢書）1981岩波書店。「HOJOKI」2004 El Nacional。

テーマ：「中南米の歴史と文化」

参加費：会員 1,000円 一般 1,200円

☎問合せ先：山崎宗城
千葉博子

澤田真人
廣瀬孝子

●2005年1月のスペイン・サロンは新年会

毎年、新年会はスペイン・サロンの委員がその開催を担当しております。今年も予定どおり1月15日(土) 14:00よりルミネ横浜店7階「ルミネ・サロン」で行われました。当日は降雪の天気予報は当たらなかったものの冷たい雨の降るととても寒い日でした。それでも会員38名、一般3名、ゲスト2名の参加で、和やかな会合となりました。



▲西川一&和子夫妻の演奏

ウェルカムドリンクのCAVAシャンパンで一息ついてから、下山会長の新年の挨拶と、齋藤副会長の乾杯の音頭でスタートし、第一部は、西川一&和子ご夫妻によるフルートとギターのデュオ演奏でスペインのクラシックの曲を聴くミニコンサートでした。会員の中に音楽関係のメンバーの多い会ですので、心休まる一時でした。さて第二部は、ワインとお料理を楽しみながらの歓談でにぎやかな時間となりました。引き続き、今年15周年を迎える横浜スペイン協会の主な企画について各担当者より説明がありました。最後は、クラベリートスの歌を全員で歌い、記念の写真を撮って散会となりました。



▲ミニコンサートを終えての歓談

2時間の短い新年会でしたが、2005年の協会のスタートをきる最初の会合としての役割を果たせたものと、委員一同ホッとして帰途につきました。

***** 文化講座からのお知らせ *****

♪♪ スペイン音楽サロンへのお誘い ♪♪

音楽サロン担当：安田秀之

♪こんな活動をしています

「スペイン音楽サロン」は、「スペイン・サロン」から派生してスペイン音楽をもっと深く掘り下げようと2002年9月から始まったサークルです。最初は主にサルスエラ（スペイン独特のオペレッタ）の鑑賞から入りました。会員の安田さんの膨大なCDやビデオのコレクションから、今まで「ラバピエスの床屋」「ラ・グラン・ビア」「ラ・パロマの宵祭り」「旅宿セビージャの客」「人騒がせな女」「水・カルメラ・焼酎」「早咲きの女」と有名なサルスエラを時代背景、見所など適切な解説付きで鑑賞。サルスエラの楽しさを知り虜になった会員も多いはずです。

「アランフェス協奏曲」をジャズ、ラテンなどいろいろなバージョンで聴く試みや、スペイン音楽ばかりでなく、アルゼンチン・タンゴの歴史を知り、古い貴重なCDを聴いたりする企画もありました。2005年がドン・キホーテ出版400周年記念に当たることから、ドン・キホーテをテーマにして、オペラ「ペドロ親方の人形芝居」（マヌエル・デ・ファーマ作曲）をすでにビデオ鑑賞しましたが、まだこれから9月にも「バロックから近代までの音楽によるドン・キホーテ像」と題した企画が続きます。このようにつぎつぎといろいろな興味深いテーマがあって、スペイン音楽通になること請け合いのサロンです。また、少し先の話ですが……。

♪スペイン中世の音楽を実演で聴いてみませんか？

近年、「ジョングルール・ボン・ミュージシャン」という3、4人の若い日本人からなる音楽集団が北鎌倉の「笛」や、中日黒、西荻窪のライブ・ハウスに出没しています。彼らは、ヨーロッパ中世に使われていた楽器、例えばハーディ・ガーディやフイドル、バッグ・パイプ、ルネサンス・ハーブ等を駆使して中世ガリシア語による聖母マリアのカンティーガを歌います。さらに、13世紀にアラゴンのハイメ1世の宮廷やカステーリャの賢王アルフォンソ10世の宮廷で活躍した吟遊詩人ギラウト・リキエの歌！「さぞかし退屈な音楽だろう」ですって！とんでもない！聞いていて、とても楽しく、エキサイティングな素晴らしい音楽です。

横浜スペイン協会の皆さんに彼らの中世スペインの音楽を是非お聞かせしたいと思い、スペイン音楽サロンは来年の3月の第2土曜日の午後15時にコンサートを開催すべく検討を開始しました。どうぞご期待下さい！



▲Odercillo (pequeña gaita)

—— ある日の音楽サロン ——

松本益代

このサロンは、当協会の理事をしていらっしゃる安田秀之さんが主宰し、ご自分のコレクションの中から特にスペインのサルスエラを中心に曲や歌詞、その由来などを説明して下さり、集まった皆さんで鑑賞しています。

先日は中南米の歌曲を聞きました。中南米の音楽と言えば、フォルクローレが真っ先に浮かびますし、タンゴやサンバ、サルサなどいろいろありますが、歌曲ですから私がイメージしたのは、フリオ・イグレスィアスが歌うような穏やかで耳にやさしい歌、またはトリオ・ロス・パンチョスが歌うような楽しく、明るい歌でした。

メキシコやブラジル、アルゼンチンなどで作られた歌を数曲、今回のゲストで当協会のメンバーでいらっ

しやる柳貞子さんのCDとスペインのメゾソプラノ、ベルガンサのCDで聞きました。ブラジルのエイトール・ビラ・ロボス作曲の「壊れたギター」、アルゼンチンのカルロス・グアスタビーノ作曲「鳩の過ち」(詩はスペイン内戦後にアルゼンチンで亡命生活を送ったラファエル・アルベルティ)、同じアルゼンチンのアルベルト・ヒナステラが作曲した「忘却の木の歌」(詩はウルグアイの田園詩人フェルナン・シルバ・バルデス)、メキシコのクラシック畑の作曲家マヌエル・ポンセが発表した「エストレジータ」、同じくマヌエル・ポンセが世に出したメキシコの民謡が元歌と思われる「椰子畑のそばで」、同じメキシコのホセ・M・ラカージェが発表した「アマポーラ」、またメキシコウアステカ地方のビオリン・ウアステカの名手であり、同時に優れた歌手でもあり、ウアステカ地方をくまなく回って埋もれた民謡を発掘したエルピディオ・ラミレスが発表した「ラ・マラゲーニャ」(詩はペドロ・ガリンドとラミレスが合作)これはウアステカ地方の歌、すなわち、ウアパンゴのリズムで歌われています。またメキシコの作曲家、トマス・メンデスが作ったウアパンゴのリズムで書かれている「ククルク・パロマ」、スペイン起源と考えられる詠み人知らずの民謡でメキシコで19世紀頃からいろいろな形で歌われて来た「シエリト・リンド」。最も普通の3拍子のワルツのテンポのもの、ウアパンゴのリズムで歌われるものの2通りが多く歌われているようで、今回はウアパンゴのリズムのものを聞きました。ウアパンゴのリズムで歌われているものは他に、「野辺に咲く花」「ラ・ペテネーラ」、「羊飼い」、「2本の木」などがありました。

ラテン音楽に関心のある人なら、誰でも何度となく耳にしていたこれらの曲は、実はクラシックの作曲家が詩人の詩に曲をつけて発表しそれをいろいろな人や楽団やグループがそれぞれの味をつけて歌い続けているものなのです。

ザビア・クガード楽団、トリオ・ロス・パンチョス、ロス・トレス・ディアマンテス、ロス・トレス・アセス、パーシーフェイス管弦楽団、ハリー・ベラフォンテ、カテリーナ・バレンテ、ペレス・プラード楽団、エドムンド・ロス楽団などが広めたり、またはシャンソンやカンツォーネで歌われて有名になったものもあります。

また、「ハナクパチャブ・クシクイニン」を聞きました。

17世紀・ペルーで司祭をしていたルイス・ペレス・ボカ・ネグラが編纂した合唱曲からでした。「ペルーのバロック」を代表するものだそうです。このあたりまで来ますと、コロンブスの発見以来、中南米へ渡ったスペインやポルトガルの宗教関係者たちが教会のための音楽をその地で作っていたということがわかります。もちろん楽譜や楽器をヨーロッパから持ち込んで、初期のころは演奏していたのですが……。

クラシック音楽はヨーロッパのもの、バロックと言えばビバルディに代表されるイタリアや、クーラン、ラモーのフランスのものしかわたしは知りませんでした。前々回ルイジ・ボッケリーニがスペインの古典派を代表することを知りました。彼は北イタリアのルッカ生まれ、1768年マドリードを訪れ、宮廷音楽家として亡くなるまで30数年をスペインで過ごし、室内楽にその本領を発揮しています。

よく考えて見ますと、ヨーロッパから持ち込まれた宗教に伴って教会建築や絵画はそれぞれの土地で作られていたわけで、それでも音楽はヨーロッパのものが楽譜で持ち込まれ、楽器も持ち込まれて演奏されていたとばかり思っていたのですが、早い時期から作曲や編集が行われ、写本という形で各地に流布していたのです。それが以前から大陸にあった音楽的要素を取り入れながら中南米のクラシックとして独自に発展して来たのでした。その一番現代化したところに、今回聞いた歌曲が位置しているということなのです。そして、私たちが知り楽しんでいる音楽は、歴史を作り上げた無数ともいえる音楽家や詩人たちの作品のほんの一部であり、それを演奏し



▲楽しいCDです

ている人たちも数知れないほどの人たちのごく一部であるということです。本当に目の覚める思いがしまし

た。そして音楽も文学や絵画と同様に中南米においては500年以上の独特の歴史が積み重なっているということなのです。

文章では音楽そのものをご紹介するわけにはまいりません。とても穏やかでやさしく、そして明るい曲が多いのです。

お時間がありましたら、ぜひ音楽サロンにおでかけください。



たのしい絵画教室



横浜からJR東海道線で約1時間30分ほど、神奈川の風光明媚な観光地、真鶴に着きます。

この地に、スペインの詩情を描く画家といわれる島津画伯のアトリエがあります。

絵画教室は、そんな環境で開かれています。どなたでも、また水彩・油彩・パステル・アクリルなど希望するどんな画材でも、習うことができます。

●6月以降の教室開催予定日（原則として毎月第1土曜日）

◆6月4日（土） ◆7月・8月はお休みです。

☎問合せ先：西川貞子

e-mail : support@yokohama-spain.org

●絵画教室参加費：1回（1ヶ月）会員 2,000円 一般 2,500円



▲横浜山手榎亭・水彩
（増田邦夫さんの作品）

▶▶▶ スペイン語教室だより ◀◀◀

I. 土曜日会話・中級クラスは“マグノリア”に名前を変更し再スタートしました

4月から従来のセレスはクラスが13年目に入りましたので、イメージを一新し中身も名前も変えて再スタートしました。名前は“マグノリア”です。花言葉は“威厳”を意味するそうです。

テキストは“Rápido, Rápido”（出版社は“Difusión”）を新しく使用します。会話中心のテキストになります。なお、月の一回目は詩や文学を観賞します。4月からロルカの詩を読み始めました。

II. スペイン語教室一覧表

4月から下表の11クラスで開講しています。興味のある方は是非一度教室をのぞいて見て下さい。

開講日	回数	時間	教室名・内容・レベル	講師
月曜日	月3回	10:30~12:00	アマポーラ（会話・初級1）	Emilio Olmos
		13:00~14:30	カメリア（会話・初級2）	Emilio Olmos
		14:45~16:15	アスセナ（会話・中級1）	Emilio Olmos
		10:30~12:00	ロメロ（作文、会話・中級）	Joan Dorado
		13:30~15:00	マルガリータ（文法・入門）	Joan Dorado
水曜日	月3回	13:30~15:00	ロサ（会話・ABC入門）	Emilio Olmos
		10:30~12:00	ヒラソル（会話・中級2）	Joan Dorado
		13:30~15:00	クラベル（会話・初級3）	Joan Dorado
		10:30~12:00	ビオレタ（文法・初級）	橘川 万里子
土曜日	月3回	10:30~12:00	マグノリア（会話・中級）	栗山 由美子
第4土曜日	月1回	10:15~11:45	新聞雑誌を読む会（上級）	栗山 由美子

☎問合せ先：スペイン語担当 牧瀬 貢

私のスペイン

スペインは多様の国です。それぞれの人の想いも多様です。あなたの想いは何ですか？

—— 会員投稿 ——

スペイン料理との出会い

—— 大森 悠爾 ——

渡航自由化直後1964年東京オリンピックの年に、メキシコを訪れたのが最初のスペイン語圏です。19歳の学生が陽気なスペイン語と音楽、風土に魅せられ、このさまざまな文化をもたらしたスペインに興味を持ち、数年後にスペインに出かけたのが最初の係わり合いです。

訪れてみて、メキシコから描いたイメージとのギャップに戸惑ったのは、Madridの街中の雰囲気が暗かったこと。道行く人々は地味な衣服で田舎臭かったこと。市民戦争後30年近くも経っているにもかかわらず、フランコ総統の独裁政権の元で戒厳令が敷かれていることから、反体制的な言動にも規制が掛けられ、夜12時には市民の外出はまかりならず、住居には外から鍵が掛けられていました。但し、当時の主産業が観光ということもあり、ホテルは出入が自由で治安も良く、どこへ行っても比較的安心でした。それと、レストランやバー、タブラオといった飲食店は別で、深夜まで良く食い、陽気にしゃべるすこぶる楽しくなる空間に、さまざまなスタイルの食文化が花開いており、まさに人生を謳歌する姿が見られました。私のスペイン料理に対する思い入れはこの辺が原点なのでしょう。バーでつまむタパス、レストランで食べる各地の料理、あの店この店と飲み、食べ歩く楽しさから、スペイン人の食に対するこだわりと、各地方料理の奥の深さに感動し、多くの日本の方に知っていただきたいと思うようになり「カサ・デ・フジモリ」を開店させました。

当時思い描いていたイメージと一致したのがアンダルシアでした。白い壁に厳しすぎるほど強い日差しと影、青い空に映える色とりどりの花、まさに多くの日本人から見たスペインのイメージがアンダルシアにありました。そしてその後新たにスペインを感じたのは、中央メセタより北の、中世に戻ったかに感じられるような歴史を感じる田舎の町です。大体が茶色の屋根瓦、石積みの家が多く、地味な感がありますが落ち着いた美しいたたずまいを見せてくれます。私はアンダルシアも好きですが、何度か足を運ぶうちにこれらの村々が気に入り、しばらく住んでみたい思いが強くなっております。

私は職業柄、料理を尋ねてスペイン各地を訪れます。2004年10月にはMadridの北約100kmにある村、SepúlvedaとPedrazaに仔羊料理を食べに行きました。この辺の村々は仔羊料理を売りものにしていてレストランが多く、素朴ではありますが素材のよさを生かした、昔から馴染みのあるメニューは食材にあまり手を加えなくてもすこぶる美味しいものです。これらの村を訪れると改めて綿々と続くスペインの原風景を感じます。通りで道を尋ねた人はいかにこやかに、親切に、ユーモアあふれて教えてくれます。レストランの主人は私が感激して美味しいを連発すると、店内隅々まで案内してくれ、調理場でわざわざ仔羊を焼いてみせて説明してくれ恐縮するほどでした。

最近、経済的に、社会的に、また食の世界に大きな変化を見せているスペイン。料理を通じて見詰めてきたスペインの伝統と文化に敬意の念を抱くと同時に、この情報あふれる時代の中で、いつまでもこの愛すべき伝統と文化が保たれることを願っております。



Restaurante Cristóbal
y Cordero lechal asado

スペインのピアノ作品の素晴らしさを伝えたい

—— 上原 由記音 ——

私は、30年近くスペインの作品を専門に演奏しており、この素晴らしいスペインのピアノ作品を広く日本に紹介したいと思って活動しております。

スペインの音楽というとフラメンコやクラシックのギターが有名ですが、ピアノ作品は、日本で紹介される事は大変稀です。しかし、「マラゲーニャ」「アストゥリアス」「タンゴ」「アンダルーサ」といった日本でも愛奏されているギターの名曲の多くは、ピアノ作品がオリジナルです。ヨーロッパでは、スペイン民族主義が確立した19世紀後半から、そのピアノ作品はパリなどで発表されると、大変な人気を博し、他国の作曲家達にも大きな影響を与えました。

そのメロディーはスペインの独特なカンテ（歌）やスペイン民謡にヒントを得たものが多く、ピアノという楽器が打楽器的な奏法も可能であることから、フラメンコのサパテアード（靴音をならす妙技）やパルマ（手拍子）も作品の中で表現されています。その他、ギターのプンテアード（爪弾き）、ラスゲアード（かき鳴らし）なども登場し、色彩感に溢れ、一般のクラシックと異なる魅力に満ちています。

今までに、私はヤマハ・ミュージックメディア社から「スペインピアノ名曲選集」という楽譜とショパン社から「粹と情熱Gracia y Pasión〜スペインピアノ作品への招待」という本を出版いたしました。しかし、出版界では毎月、沢山の刊行物が発売されるので、オーダーの無いものは店頭にならなくなり、貴重な内容のものでも絶版になることがあります。日本の音楽界はドイツが主流で、一般の方にとっては、スペイン作品がどんなものなのか、知る機会さえ無い状態ですので、ぜひ皆さまに、スペインピアノ作品の魅力を一人でも多く伝えていただけたら嬉しく思います。

「スペインピアノ名曲選集」は先に述べたギターの原曲を含め、魅力に溢れた名曲ばかりを集めており、「粹と情熱」では、これ一冊でスペインピアノ作品に興味を持っていただけるように、スペインの文化や歴史、作曲家の生涯や、343曲の作品について解説や弾き方を説明し、2冊ともアマチュアの方からプロの方までを対象としています。本の執筆にあたっては世界の最高峰といえる先生方（ピアノの女王といわれるアリシア・デ・ラローチャ先生、アルベニス研究の第一人者ハシント・トーレス教授、アルベニスの楽譜の校訂者でマドリード音楽院教授のギジェルモ・ゴンサレス氏、モンポウの夫人カルメン・ブラーボ女史、トゥリーナ研究の第一人者アントニオ・ソリア氏、ロドリーゴの娘セシリア・ロドリーゴ女史、モンサルバーチェ夫人エレナ・モンサルバーチェ女史など）に生（なま）の情報を頂き、スペイン政府文部科学省からグラシアン基金を頂いて出版いたしました。

インターネットでは「上原由記音スペイン音楽セミナー《スペインピアノ作品を弾こう！》」というメールマガジン（無料）を発行して、本で紹介しきれなかった詳しい演奏方法を提供しており、昨年開催した、購読者の方による「スペインピアノ作品を弾く会」では27の方が演奏してくださいました。

これからも広く日本にこの素晴らしさを伝えていくために、皆様のお力添えをいただきながら、頑張っていこうと思います。



▲本邦初のスペイン・ピアノ作品
343曲全ガイド。「粹と情熱」

スペイン語との出会い、そしてスペイン旅の回想

—— 太田 邦雄 ——

出会い、それはかつて日本人が世界の人々から「働き蜂」と揶揄された、経済高度成長期途上の頃です。某家電メーカーに就職した頃、どこの企業も国際化を目指し次々と海外拠点を設置し、グローバル化を進

めていました。身近な先輩が、これらの拠点の責任者として赴任する姿を目にし、近い将来の自分に置き換え、次なる出番に夢と希望を膨らませていました。

好機到来、中米への赴任が決定。スペイン語圏の必須条件として、スペイン語会話が不可欠。60H限定（最終的にはもう1サイクル延長）でマン・ツー・マン指導のもと日常会話を習得することになり、この機会がスペイン語との出会いになりました。

人体名称、動植物名、乗り物、年月日、時間などの名詞、職責上の数詞の特訓など。初歩実力の程は現地でのぶっつけ本番の場面での、Mucho gusto. Me llamo ….

幸い現地通訳の大きな力添えもあり、仕事上での大きなトラブルもなく終えることができました。が、唯一の失敗はダンスの経験不足でした。〇〇記念日、〇〇祭に催される行事には、パーティがつきもの。パーティにはダンスが不可欠。リズム音楽にも、スローテンポにも乗れず、毎日が冷や汗ものでした。遅まきながら海外ではダンスが必須、今更悔しく、残念な思い出です。

コストの高い外国語を忘れぬよう、また再びの海外を心に秘めて、帰国後も語学講座を続けてきました。当協会の教室には老いの夢をもう一度の気持ちでお世話になり、お付き合いの場とさせていただきました。

足掛け〇年の自己流スペイン語の実力体験は、10余年前バルセロナオリンピックの年です。会社勤め30年の節目に夫婦で出かけたスペイン10日間の旅でした。その頃はどこの会社でも休暇と祝い金を支給する、このような福祉制度がありました。

「全宿泊をパラドールに」との自己流スケジュールに縛られ、目当ての観光スポット、宿泊施設、移動手段の選択に追われ、非効率な旅行となってしまいました。マドリード、バルセロナともオリンピック祭典の直後で諸物価も高騰し、その熱も覚めやらぬ頃だけに、友人曰く「オリンピック開催に近寄るべからず」と。

マドリードのホテルのチェックインで初トラブル、会話が聞きとれず右往左往し、思い返せば予約の確認だったのかと。東西南北、地下鉄、バスの乗り方、チケットの買い方まで度胸がつくまでは四苦八苦。後は市内地図と首引きで、ただただ歩くのみ。

トレドには定期バスで行くため、重いスーツケースを引きアトーチャ駅へ。このバスのハイウェイでなんと飛ばすこと、そのスピードに驚き。



▲トレドを背に 1992-9-17

パラドールから河をはさんだトレドの全景、その夜景の美しさは今でも時々夢にみえます。

次のセビージャではレンタカーを調達、マニュアルギア、右側通行、サークル交差に戸惑いながらコルドバ、マラガ、グラナダへ。ハイウェイの両側は、時期を失して緑なく、茶一色の荒涼とした大地、ところどころの山あいには白壁の集落が点在する田園風景です。時速100km超でそんな一本道を走るわれわれを追い越していくスピード狂にも驚き。

スペインのフライパン、コルドバは暑く、宮殿、寺院、街の小径には原色の花が満開。マラガには峠越えで、遠望した海は地中海。足を浸そうと駐車場を捜す海岸の路地裏でカワサキ製のバイクと接触し、市内観光もどこへやら、事故処理に七転八倒したものの、ここのパラドールからの眺望に癒され、地中海には触れもせず、次のグラナダへ。

グラナダの目玉は一つ、終日アルハンブラを散策。日本人ツーリストのなんと多いこと。最終地バルセロナ。ガウディを見なければ価値なしと、終日市内バス乗車券で走り回りました。パラドール「カルドナ」は遠く、ローカル電車とバスを利用しての往復です。乗り合わせた人々は珍客に興味津々、家内も「人形みたい」といわれてご機嫌の様子。

勝手知った国内旅行ならばいざ知らず、経験不足の海外旅行に「おれ流」はなかなか手強く、次はゆっくり、のんびり〇〇ツアーに挑戦と夢をふくらませる今日この頃です。

ユステの僧院

石元 道子

私はカルロス五世の終焉の地ユステを紹介したいと思います。ユステはマドリードの西、エストレマドゥーラ地方カセレス県の山の中に位置する小さな村ですが、そこにあるヘロニモ派の僧院は、カルロス五世が1556年から亡くなる1558年までの2年間を過ごした所です。カルロス五世は父をブルゴーニュ公国王、フェリーペ。母をスペインカトリック両王の娘、ファナの長男として1500年にベルギーのアントワープに生まれました。15歳でブルゴーニュ公国王、16歳でスペイン国王、19歳で新生ローマ帝国皇帝と実に三つの称号を継承することになり、統治する版図はベルギー、ドイツ、オーストリア、スペイン、イタリア、トルコ、果ては新大陸という広大な地域となりました。その為にこれらの土地を統治すべく、彼の人生の大半は各地の巡行に費やされました。この移動にも莫大な費用がかかり、まずその費用を捻出する為に各地の議会からの上納金の獲得、一時の油断も許せないフランスの動向や侵略戦線の兵士の督励など金策と政略に追われる日々だったようです。こんなカルロス五世も55歳の時に母ファナの死、自身の病からくる心身の衰えを自覚しました。そして全ての地位からの退位を決意し、心の安らぎを求めてユステに旅立ちます。痛風や糖尿病のため、馬にも乗れず陸地は籠、険しい山道は従者の肩に背負われての約4ヶ月の旅でした。

私がユステを訪れたのは2000年の11月の終わり、カルロス五世が隠遁の地としてユステの僧院を選び、病を押して遠くベルギーのブラッセルから最後の旅を出発して、ようやくユステ近郊のハランディージャにたどり着いた季節と同じ頃でした。晩秋のユステの僧院は見上げるばかりのユーカリの木に囲まれ、薄日のさすひっそりとした僧院の中に入ると、何か重苦しい靈氣に一瞬たじろぎながらも、僧院のガイドに従って遺品の数々を見てまわりました。特に、病床から出ることも叶わなくなっからは、
▲ユステの僧院の入り口
ベッドから寝たままでも修道士とともにミサに参列できるように壁をくりぬき、祭壇が見られるようにしたことなどの説明は、カトリックの信仰心に基づく帝王学と義務感に導かれた彼の人生を思わずにはいられませんでした。僧院から出て静かな木立を歩くと、重苦しい心を浄化すべく爽やかなユーカリのアロマが漂っていました。



私がユステを訪れたきっかけは上野健太郎氏のカルロス五世をテーマにした講演会を聞き、先生が書かれた「スペインハプスブルク カルロス五世の旅」を読んだことからでした。ちょうど「カルロス五世のゆかりの地ベルギー・スペインを巡る旅」の募集があり、上野先生も同行される由、思い切って参加いたしました。カルロス五世がユステに移るまでの2ヶ月間を過ごした館は、ハランディージャ・デ・ラ・ベラというパラドールになっており、そこに宿泊できたこともユステの旅をより深いものにしてくれました。本にくわしく書かれていますが、先生ご自身が熱い思いで実際に足を運ばれたゆかりの地の説明と風景は、感慨深い余韻を今でも心に残しており、機会があれば皆さんにも是非訪れていただきたい所です。

参考：「スペインハプスブルク カルロス五世の旅」 著者・上野健太郎 発行・JTB

ユステのホームページ www.yusute.org/monasterio

— 賛助会員各社の会員サービス内容 —

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛 助 会 員	住 所	電 話 番 号	会 員 サ ー ビ ス 内 容
レストランオーリーブ	横浜市中区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	J R 目黒駅（東京）徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
太陽海外航空㈱	東京都中央区京橋2-2-14 山陽アネックスビル	03-3281-2441	成田空港使用料の負担
日西商事（うさぎのいる島）	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料

//////////////// 新入会員紹介 //////////////////

松島 幸弘 (Yukihiro Matsushima) 2004年12月1日入会

横浜市金沢区

昨年(2004年)4月から、協会のスペイン語教室でお世話になっています。

スペイン・サロンに参加することで、スペインの文化や、日本との交流の歴史など、幅広く学びたいと願っております。

笹井 恵子 (Keiko Sasai) 2004年12月20日入会

横浜市金沢区

横浜に来て13年が経ちました。京都に生まれ育ち、未だに京都弁がでる始末です。スペイン語との出会いは、8年前に中米に駐在した折でした。現地では、英語で学習しなくてはならず、大変な思いでした。帰国後、中米の先生について勉強し続けています。

スペイン人のメル友ができて、文化や歴史も勉強したくなってきました。

武信 孝雄 (Takao Takenobu) 2005年1月10日入会

横浜市金沢区

スペイン語との関わりは、1971年に中南米諸国を仕事の関係で歩いたのが始まりです。

約40年間ハワイアンバンドに参加していますが、ラテンをはじめスペイン語の音楽も大好きで、スペイン語圏へ出かけては、踊りを見たり音楽を聴いたりして歩いています。

秦 恵美子 (Emiko Hata) 2005年2月20日入会

福岡県朝倉郡

私にとってスペインは、とても興味深い国です。しかし、残念ながらまだ深く知りません。そこでこれから、時間をかけて、言葉、文化、音楽など多くのことを沢山知りたいと思って入会しました。

横浜は少し遠いけど、スペインに比べればはるかに近い所といえましょう。よろしくお願いします。

釜 秀雄 (Hideo Kama) 2005年4月7日入会

横浜市旭区

コーラス暦56年。声楽のレッスン暦は高校、大学、社会人を通じて32年。現在、くにたちオペラ座で歌っています。

以前は、主としてイタリア歌唱、カンツォーネ、オペラを歌って来ましたが、11年前よりサルスエラの美しいメロディ、複雑な和音の構成と進行に魅せられてしまいスペインより楽譜を取り寄せて歌っています。

皆様とサルスエラや中南米の音楽を聴いて楽しみたいと思っています。出来ればサルスエラ研究会でもやればよいなあと考えています。

＜編集後記＞ AIYES通信15周年記念号をお届けします。41号は記念号のため6月発行となりました。協会設立早々から入会し、以来編集ひと筋？でお手伝いをしてありますが、毎号編集をするたびに「ガイドブックでは絶対聞けない情報満載」と自負しています。HPやサロン、語学教室と合わせればもう並大抵の情報量ではないわけでそれだけでも協会の素晴らしさ感じられるのではないのでしょうか。これからも会員皆様のご協力をお願いしつつ「よそでは買えないAIYES通信」を目指して行きたいと思います。遅ればせながら「会員のひとこと」でした。(鈴木生雄)

編集委員 渡邊昭夫 澤田真人 鈴木生雄 高柳治子 寺原瑛子 廣瀬勝亮 牧瀬 貢 宮崎紗伎 村田 誠 山崎宗城 飯塚 劭

* 投稿寄稿宛先

横浜スペイン協会会報係 e-mail : yokohama-spanish@ybb.ne.jp

横浜スペイン協会URL http://www.yokohama-spain.org

次号の原稿締切は

7月23日(土)です。

投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。

協会創立15周年記念行事のご案内

すでに終了したものもありますが、これからのものも多くあります。以下創立15周年記念イベントをご紹介します。多くの会員のみなさまのご参加をお待ちしています。また、一般の方にもご参加いただけるものがたくさんあります。会員外のお知り合いをお誘いください。なおこれらのイベントには以下の機関・団体・企業の後援をいただいております。

スペイン大使館、横浜国際交流協会、朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）、FMヨコハマ

1. 駐日スペイン大使館庭園へ「横浜緋桜」を植樹

昨年スペイン大使館が改装され、当協会はスペイン大使との約束で、その庭に去る2月26日、5本の「横浜緋桜」を植樹しました（本文22頁をご参照ください）。

2. ロンダ市へ親善訪問

ロンダ市に「日本さくら広場」が新設されました。会員の三崎輝夫さん夫妻念願のベンチも設置され、ロンダ市民には憩いの場所の一つになりました。この寄贈式を兼ねロンダ市の市長や、この件でお世話になった方々へのお礼、市民との交流を促進する目的で、ロンダへの親善訪問団が4月初旬に実施されました（本文21頁をご参照ください）。

3. 「私たちのスペイン展」の開催

会期：2005年6月20日（月）～26日（日） 11：00～19：00

会場：みなとみらいギャラリーB

会員が日頃思いをはせているスペインをテーマにした作品を、披露しあう展覧会です。スペインへの思いを一葉の写真、一枚のスケッチに込めて、自慢の作品がならびます。

4. 全国各地の「スペイン協会」との交流会

日時：2005年6月24日（金） 14：00～16：00

会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル・エーゲの間

国内各地にあるスペイン協会の方たちとの意見交換や活動報告などを通し、交流を深めるための交流会です。より良い活動のエネルギーの源になることと思います。参加対象は会員のみです。

5. 会員アーティストによる「スペイン音楽の夕べ」の開催

日時：2005年6月24日（金） 16：30開場 17：00開演

会場：横浜みなとみらいホール 小ホール

入場料：2,000円 [全席指定]

会員の中には色々のジャンルのスペイン音楽の専門の方々がいます。その方々のご協力でスペイン音楽を堪能します。他の音楽会とはひと味違うものになりそうです。ご期待ください。一般の方の入場也大歓迎です。

6. 記念パーティの開催

日時：2005年6月24日（金） 19：30～21：30

会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル・パシフィックの間

会費：9,000円

特別出し物として、フラメンコをご用意しています。ベイブリッジを望む素敵な眺めの会場です。楽しいスペインの夕べをお楽しみください。一般の方のご参加也大歓迎です。